2025年度　授業概要

学　科　：　歯科衛生士科

科目名（英）	口腔解剖学（組織発生学含む） （ Oral Anatomy ）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	寺田　善博
						実務経験	○
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2	開講区分	後期
コース						曜日・時限	月曜、2時限目

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

歯科医師として臨床に携わってきた教員が、歯科衛生士として必要な知識である口腔解剖学について講義する。
・発生学を含めた口腔領域の解剖学（骨学・筋学）→口腔を3次元的にイメージ
・口腔の構造ならびに歯の形態と組織およびその周囲組織について知識を修得する。
・スケーリングの際歯冠だけでなく歯根の形態の理解も必要

※実務経験 1973.6～1974.6九州大学歯学部附属病院勤務

【到達目標】

①顎顔面領域および口腔領域の各部位の名称を理解する。
②咀嚼筋および舌骨上筋群の名称・起始・停止を説明できる
③顎関節の構造を理解する
④頭頸部に分布する筋・神経・動脈・静脈を理解する
⑤歯牙解剖を理解する
⑥口腔領域の組織発生を理解する

授業計画・内容	
1・2・3・4・5回目	「口腔とその周囲の解剖学」について理解する
6・7・8回目	「歯の形態（歯の解剖学総論）（永久歯）（乳歯）（歯の異常）」について理解する
9・10・11回目	「歯の形態（歯列と咬合）」、「歯および歯周組織の構造と機能」について理解する
12・13回目	「顔面と口腔の発生」、「歯と歯周組織の発生」、「歯の形を理解する実習」について理解する
14回目	まとめ
15回目	定期試験対策
準備学習時間外学習	●予習・復習の実践 ●体調を整え、欠席をしないように心掛ける ●勉強の習慣化
評価方法	●授業態度 ●出席状況（66．7%以上）クリアで定期試験受験可 ●定期試験（60%以上）クリアで科目単位取得
受講生へのメッセージ	近年、若年者を中心にう蝕の減少が認められる一方、高齢者人口の増加と中高齢者層の残存歯数の増加が相まって、歯周疾患患者数の増加が明確となっている。さらにインプラント治療の拡大などもあり、歯科治療における中長期的な予防管理（メインテナンス）の重要性はますます増大しており、この中核を担う歯科衛生士に対する期待は一層大きくなっている。連携医療のなかで歯科衛生士は他職種とスムーズなコミュニケーションを取るために必要な全身の知識に加え、口腔の専門職として口腔の「構造」と「機能」を掘り下げて理解する必要がある

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：医歯薬出版　歯科衛生学シリーズ「口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」
プリント配布

2025年度 授業概要

学 科 ： 歯科衛生士科

科目名（英）	微生物学・口腔微生物学 （ Microbiology ）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	山下 喜久
						実務経験	○
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
コース						曜日・時限	水曜 1・2時限目

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

微生物学・口腔微生物学の授業では、歯科医師として臨床に携わっている教員が、歯科衛生士として必要な知識である微生物学の講義を行う。細菌・真菌、ウィルスなどの微生物、それによって引き起こされる歯科領域の疾患について教授する。

※実務経験 1986.11～2000.9九州大学歯学部附属病院勤務 2000.10～2003.6日本大学勤務 2003.7～九州大学病院勤務

【到達目標】

感染症の成り立ちを知るために個々の微生物の種類・性状・形態や構造、病原性とその経路について理解する。
そして、生体防御能の中心をなす免疫学も理解する必要がある。

授業計画・内容	
1回目	第1章 微生物の発達と歴史について理解する
2回目	第2章 微生物の一般性状について理解する
3回目	第3章 微生物の観察方法について理解する
4回目	第4章 感染、感染と発症について理解する
5回目	第4章 感染症の種類、感染の経路について理解する
6回目	第5章 免疫について概説できる
7回目	第5章 アレルギーについて概説できる
8回目	第6章 病原微生物について理解する
9回目	第7章 化学療法について理解する
10回目	第8章 滅菌と消毒の定義について理解する
11回目	第8章 消毒と滅菌の方法について概説できる
12回目	第9章 口腔内常在微生物について理解する
13回目	第10章 口腔感染症について概説できる
14回目	第11章 病巣感染について概説できる
15回目	まとめ及び定期試験対策
準備学習時間外学習	●予習・復習の実践 ●体調を整え、欠席をしないように心掛ける ●勉強の習慣化
評価方法	●授業態度 ●出席状況（66．7%以上）クリアで定期試験受験可 ●定期試験（60%以上）クリアで科目単位取得
受講生へのメッセージ	微生物学とは感染症の成り立ちを知る学問です。個々の微生物の病原性について理解することはもちろん、病気を起こす側（生体）の防御能についても知る必要があります。生体防御能の中心をなす免疫学は歯科衛生士を目指す学生にとって最大の関心事である歯科疾患を中心に勉強します。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ「微生物学」
プリント配布

2025年度　授業概要

学　科：　歯科衛生士科

科目名（英）	衛生学・公衆衛生学 （ Hygiene・Public Health ）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	秋山　理加
						実務経験	○
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2	開講区分	後期
コース						曜日・時限	水曜、2時限目

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

歯科医師として臨床に携わっている教員が、国民の歯科保健の向上を目指し、歯科衛生士として必要な知識である衛生・公衆衛生学について講義する。口腔衛生学・歯科保健指導との結びつきが強い科目であるため、口腔領域の保健・衛生と関連づけて教授する。スライドやプリントを活用し理解しやすい工夫をする

※実務経験 2012.4～2013.3九州歯科大学総合診療科勤務　2013.4～医療法人茂山歯科医院勤務

【到達目標】

①疫学の定義を説明できる
②疾病や異常の発生要因（因子）を説明できる
③我が国および世界における人口の現状と推移の概要を説明できる
④人口の高齢化について考察できる
⑤人口動態統計の概要と我が国の特徴について説明できる
⑥環境の重要性を理解できる
⑦健康と環境の関係を理解できる
⑧公害問題を解決するための方法を考えることができる

	授業計画・内容
1回目	「Ⅰ編　1章　総論」 保健生態学とは、健康の概念
2回目	「Ⅰ編　1章　総論」 予防医学の概念
3回目	「Ⅰ編　2章　疫学」 疫学の定義および概要
4回目	「Ⅰ編　2章　疫学」 疫学の研究方法、臨床疫学
5回目	「Ⅰ編　3章　人口」 人口の動向、人口動態統計、生命表
6回目	「Ⅰ編　4章　健康と環境」 環境の概念、空気・水と健康
7回目	「Ⅰ編　4章　健康と環境」 放射線と健康、住居・衣服と健康、地球環境問題
8回目	「Ⅰ編　4章　健康と環境」 公害と健康への影響、廃棄物処理
9回目	中間テスト（第1～7回授業の復習）
10回目	「Ⅰ編　5章　感染症」 感染症の成り立ち
11回目	「Ⅰ編　5章　感染症」 感染症の予防
12回目	「Ⅰ編　5章　感染症」 主な感染症の動向
13回目	「Ⅰ編　6章　食品と健康」 食品保健
14回目	「Ⅰ編　6章　食品と健康」 栄養と健康
15回目	まとめ及び定期試験対策
準備学習時間外学習	●予習・復習の実践 ●体調を整え、欠席をしないように心掛ける ●勉強の習慣化
評価方法	●授業態度 ●出席状況（66．7%以上）クリアで定期試験受験可 ●定期試験（60%以上）クリアで科目単位取得
受講生へのメッセージ	衛生学・公衆衛生学は社会医学系に属する学問として位置づけられています。専門基礎分野にあり「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み」の一部を学びます。健康を左右する環境について理解し、次いで個人を対象とした口腔の健康と予防について理解する。そして、集団を対象とする地域保健活動の在り方と、他職種と歯科衛生士と歯科衛生士との関わりについての理解を深めて欲しい。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：医歯薬出版　歯科衛生学シリーズ「保健生態学」
プリント配布

2025年度　授業概要

学　科：　歯科衛生士科

科目名（英）	歯科補綴学 （ Prosthodontics ）	必修選択	必修	年次	2	担当教員	鮎川　保則
						実務経験	○
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
コース						曜日・時限	火曜　1時限目

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

歯科医師として大学病院等で臨床に携わる教員が、歯科衛生士として必要な知識で難る現有歯の実質欠損・喪失歯による形態および機能回復について講義をする。
全15回の講義中12回目ごろに大学病院での臨床実習に臨む。講義で学習した内容を臨床実習で実体験することで学習効果を上げる。臨床実習終了後、残りの講義を実施し、総まとめを行う。

※実務経験 1997.4～　九州大学歯学部附属病院勤務

【到達目標】

歯質欠損に対する歯冠修復と歯列の一部、あるいは全部の歯の欠損に対する咬合回復の治療法を理解する。

＜具体的な目標＞

目標①顎口腔系機能の特徴と咬合を説明できる

目標②補綴物（義歯、ブリッジ、クラウン、インプラント）の種類・特徴とその治療の流れを説明できる

目標③歯科補綴治療の準備や補綴物装着後の管理・メインテナンスの重要性を説明できる

	授業計画・内容
1回目	Ⅰ編　基礎編　1章　歯科補綴治療とは　歯科補綴治療の意義と目的、補綴装置の種類と適応
2回目	滅菌と消毒、補綴治療における診療補助、歯科技工士との関係、患者に対する指導
3回目	2章　歯科補綴治療の基礎知識　歯列の形態と位置関係、顎口腔系の機能、咬合とその関連事項、歯の欠損・喪失に伴う変化・障害、顎関節とその異常
4回目	Ⅱ編　診療編　1章　クラウン　クラウンの分類、臨床ステップの概要、患者指導
5回目	2章　ブリッジ　ブリッジの構成と材料、臨床ステップの概要、診査、診断、前処置
6回目	2章　ブリッジ　支台歯形成、印象採得　咬合採得　技工依頼、技工操作①　試適　コア採得
7回目	2章　ブリッジ　技工操作②　完成ブリッジの試適、調整　セメント合着　装着後の注意、口腔衛生指導
8回目	3章　部分床義歯　部分床義歯の分類、部分床義歯の構成、臨床ステップの概要、患者指導
9回目	4章　全部床義歯　全部床義歯の分類、全部床義歯の構成要素
10回目	4章　全部床義歯　臨床ステップの概要
11回目	5章　補綴治療に用いられる器材とその管理　切削・研磨・研磨用器材、印象採得用及び模型調整用器材、咬合採得用器材と咬合器、人工歯　器材の管理
12回目	6章　特別な名称をもつ義歯　治療目的による名称を持つ義歯、構成によって特殊な呼ばれ方をする義歯、顎顔面補綴装置
13回目	7章　補綴装置の補修、除去　クラウン・ブリッジの補修、除去、有床義歯の補修
14回目	8章　下顎運動及び咬合の機能検査　咬合接触状態の検査、下顎位および下顎運動の検査法、筋機能検査法
15回目	まとめ及び定期試験対策
準備学習時間外学習	●予習・復習の実践 ●体調を整え、欠席をしないように心掛ける ●勉強の習慣化
評価方法	●授業態度 ●出席状況（66．7%以上）クリアで定期試験受験可 ●定期試験（60%以上）クリアで科目単位取得
受講生へのメッセージ	歯科補綴学は歯科医学のなかでは終末処置を担当している学問である。すなわち、歯の実質欠損や歯が喪失した場合はその部分を人工的なもので補うことで歯科治療が完了したことになる。歯が失われたことによる機能と審美の低下や喪失を回復し、肉体的・精神的医療を担当する役割は極めて大きいのです。診療の手順や器具材料に関して熟知し、補綴物の清掃方法など患者に対して十分おこなうことができれば補綴後の予後を良好にし、補綴物の寿命を長くすることができるのです。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：医歯薬出版　歯科衛生学シリーズ「歯科補綴学」
プリント配布

2025年度 授業概要

学 科 ： 歯科衛生士科

科目名（英）	口腔外科学 （ Oral Surgery ）	必修選択	必修	年次	2	担当教員	中村 誠司
						実務経験	○
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
コース						曜日・時限	金曜 1・2時限目

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

大学病院等で歯科医師として臨床に携わる教員が、歯科衛生士として必要な口腔外科領域の歯科疾患の概要と診療に於ける歯科衛生士の役割・技術について教授をする。
スライドや資料を使用し、実際の症例をもとに講義を進めていく。臨床実習で実践ができるよう診療補助との連携を図る。
全15回の講義中12回目ごろに大学病院での臨床実習に臨む。講義で学習した内容を臨床実習で実体験することで学習効果を上げる。
臨床実習終了後、残りの講義を実施し、総まとめを行う。

※実務経験 九州大学歯学部附属病院勤務・九州大学病院顎口腔外科（医員）勤務

【到達目標】

①口腔外科が対象とする疾患・口腔の解剖学的特徴・口腔病変と全身疾患について理解する

②顎・口腔領域の先天異常と発育異常・口唇口蓋裂について理解する

③顎・口腔領域の損傷および機能障害、口腔粘膜の病変について理解する

④顎・口腔領域の嚢胞性疾患、腫瘍、唾液腺疾患、神経疾患について理解する

⑤口腔外科診療の実際（流れ・器材器具・止血・縫合）の知識を深める 口腔外科処置における歯科麻酔について学ぶ（局所麻酔・全身麻酔・精神鎮静法など）

	授業計画・内容
1回目	Ⅰ編口腔外科の概要 「1章 口腔外科と歯科衛生士」「2章 口腔疾患と内科系疾患との関係」 口腔外科とは、口腔外科における歯科衛生士の役割、口腔疾患の全身への影響、口腔領域に症状を現す全身疾患、内科系疾患を持つ患者の歯科治療、内科系疾患を持つ患者にたいする注意
2回目	Ⅱ編口腔外科領域の主な疾患 「1章 口腔領域の主な疾患」「2章 口腔領域の損傷」 歯の異常、口腔軟組織の先天異常、唇裂・口蓋裂、顎の先天異常と奇形、歯の外傷、顎骨骨折、軟組織の損傷
3回目	「3章 口腔粘膜疾患」 水泡形成を主徴とする疾患、紅斑およびビランを主徴とする疾患、潰瘍を主徴とする疾患、白斑を主徴とする疾患、色素沈着を主徴とする疾患
4回目	「4章 口腔領域の炎症」 歯周組織の炎症、顎骨の炎症、顎骨周囲組織の炎症
5回目	「5章 顎関節疾患」「6章 口腔領域の嚢胞」 顎関節症、顎関節の外傷、その他、顎骨内にできる嚢胞、軟組織にできる嚢胞
6回目	「7章 口腔領域の腫瘍」 歯原性腫瘍、非歯原性良性腫瘍、非歯原性悪性腫瘍、前癌性病変、腫瘍類似疾患
7回目	「8章 唾液腺疾患」炎症、腫瘍、その他
8回目	「9章 口腔領域の神経疾患」「10章 血液疾患と出血性素因」 神経痛、神経麻痺、オーラルジスキネジア、赤血球の疾患、白血球の疾患、出血性素因
9回目	「付章 口腔・顔面に症状を現す症候群」形態異常が見られる疾患、粘膜に症状が現れる疾患、唾液腺に症状が現れる疾患
10回目	Ⅲ編「1章 診察と診断」「滅菌と消毒」 診察の実際（診察と診断の過程における歯科衛生士の役割）、口腔外科における滅菌と消毒の意義、手術器材の滅菌と消毒・日常の管理、手指の消毒、手術野の消毒、院内感染防止
11回目	「3章 創傷処置」「4章 抜歯術」 軟組織の治療、創傷の治癒経過、適応症と禁忌症、器具の準備、抜歯の実際と介助
12回目	「5章 口腔外科小手術」「6章 口腔出血に対する処置法」 歯槽整形および骨瘤除去手術、口腔インプラント、切開・排膿の手術、嚢胞摘出手術、歯および歯槽骨外傷の処置、口腔出血の診断のポイント、止血法と止血剤（材）止血法の実際と介助
13回目	Ⅳ編歯科口腔外科の麻酔「1章 歯科麻酔と歯科衛生士バイタルサイン実習」 術者として知っておく事（スケーリング時）、介助者として知っておく事、全身評価、ストレスに対する生体の反応、バイタルサインの意味と見方
14回目	「2章 麻酔法・精神鎮静法」「3章 救急蘇生法」 局所麻酔、精神鎮静法、全身麻酔、全身的偶発症の原因と種類およびその対応、蘇生法、酸素療法、血管確保
15回目	まとめ及び定期試験対策
準備学習時間外学習	●予習・復習の実践 ●体調を整え、欠席をしないように心掛ける ●勉強の習慣化
評価方法	●授業態度 ●出席状況（66．7%以上）クリアで定期試験受験可 ●定期試験（60%以上）クリアで科目単位取得
受講生へのメッセージ	現在、我が国は65歳以上の人が21%を超えて超高齢社会となった。そのため疾病構造も大きく変わり歯科衛生士の対象患者も変化した。8020達成者は25%以上となり、高齢者の口腔内には多数の歯が存在するものの、それらの多くは決して健全ではなく、顎・口腔粘膜に病変がある患者も多いため歯科衛生士よる専門的な口腔全体の管理がますます必要になってきた。歯科衛生士にとって周術期の患者管理やカンジダ症や難治性口腔粘膜疾患、特に口腔癌を早期発見するための口腔観察も重要な業務となってきている。また、手術室の環境維持、器材器具の管理を含め口腔外科や歯科麻酔に関係する歯科衛生士の役割は大きい。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ「口腔外科学・歯科麻酔学」
プリント配布

2025年度　授業概要

学　科　：　歯科衛生士科

科目名（英）	小児歯科学 （ Pedodontics ）	必修選択	必修	年次	2	担当教員	中本　由希
						実務経験	○
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
コース						曜日・時限	火曜　2時限目

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

身体的・精神的・社会的発達途上にある小児の特徴を理解し、チーム診療の役割について知識と技術を習得する。
※授業媒体としては主にｽﾗｲﾄﾞ・ﾌﾟﾘﾝﾄを活用し治療の流れがわかるような工夫を行う。

※実務経験　2005.4～2010.3九州大学病院小児歯科　2010.4～2013.4医療法人元気が湧くKid's歯科とび
2013.10～2015.3はしもと小児歯科・矯正歯科　2015.4～たむら歯科医院

【到達目標】

小児の身体的・心理的特徴と小児の歯科治療を理解する。

＜具体的な目標＞

目標①小児の心身の発達と口腔内の特徴を説明できる。

目標②年齢、精神状態、状況別に応じた患児への対応法を説明できる。

目標③小児歯科におけるう蝕予防および進行抑制処置と口腔管理について説明できる。

目標④障害児の歯科的特徴と対応法、診療介助の方法について説明できる。

授業計画・内容	
1回目	Ⅰ編　総論「1章　小児歯科学概論」 小児歯科学とは、小児歯科診療と歯科衛生士の役割
2回目	「2章　心身の発育」 発育の概念と分類、発育の評価、生理的年齢、器官の発育、精神的発達、小児の生理的特徴
3回目	「3章　顔面頭蓋の発育」「4章　歯の発育と異常」 顎顔面頭蓋の発育、顎の発育、発育の評価法、歯の形成、歯の発育時期と形成障害、歯の萌出、歯の萌出異常
4回目	「5章　歯列・咬合の発育と異常」 歯列および咬合の発育、歯列・咬合の発育異常
5回目	「6章　乳歯・幼若永久歯の特徴とう蝕」 乳歯の特徴、幼若永久歯の特徴、乳歯のう蝕、幼若永久歯のう蝕
6回目	「7章　小児の歯科疾患」 小児にみられる口腔軟組織の異常と疾患、小児にみられる歯周疾患
7回目	Ⅱ編　各論 「1章　小児期の特徴と歯科的問題」 低年齢児の特徴、留意点と特徴的歯科疾患
8回目	「2章　小児歯科診療体系の流れ」 小児の歯科診療とその特徴、小児歯科における齲蝕予防処置、母親教室
9回目	「3章　患児の対応法」 患児・保護者と歯科医・歯科衛生士との関係、診療室における小児の態度と行動、年齢別にみた小児の行動と対応法、治療時の対応法
10回目	「4章　小児歯科における診療補助の原則」 小児歯科診療における補助、小児患者における麻酔法、ラバーダム防湿法
11回目	「5章　診療補助1　診査、修復、歯内療法」 診査、診査時に行う検査と資料採取、小児の歯冠修復、乳歯の歯冠修復、小児の歯内療法、乳歯歯内療法の手順と器具、幼若永久歯の歯内療法応用時の注意点
12回目	「6章　診療補助2　外科的処置、咬合誘導」 乳歯の抜歯、切開、小児の歯の外傷、小児に対する薬剤処方と薬物療法、咬合誘導治療
13回目	「7章　定期健診（リコール）」 定期健診の目的、定期健診の方法、定期健診のシステム、定期健診時の診査項目
14回目	「8章　障害児の歯科治療」 障害とは、障害の区分、臨床現場で遭遇する主な障害とその全身的・歯科的特徴、障害児の対応、診療介助の基本、障害児の歯科予防対策
15回目	まとめ及び定期試験対策
準備学習 時間外学習	●予習・復習の実践 ●体調を整え、欠席をしないように心掛ける ●勉強の習慣化
評価方法	●授業態度 ●出席状況（66．7%以上）クリアで定期試験受験可 ●定期試験（60%以上）クリアで科目単位取得
受講生へのメッセージ	小児歯科では、治療の対象が成長し続ける小児であり、またその保護者である母親の協力を不可欠としています。さらに、う蝕が食生活の乱れと口腔清掃の不良に起因していることから、他の診療科とは異なった診療体系をとります。患者である小児とその保護者の特性を理解した歯科衛生士の適切な指導と支援があって、初めて小児歯科としての役割を果たすことができます。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：医歯薬出版　歯科衛生学シリーズ「小児歯科学」
プリント配布

2025年度　授業概要

学　科：　歯科衛生士科

科目名（英）	高齢者歯科学・障害者歯科学 （ Geriatric Dentistry・Handicapped Dentistry ）	必修選択	必修	年次	2	担当教員	荻野　洋一郎
						実務経験	○
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
コース						曜日・時限	木曜　1・2時限目

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

歯科医師として臨床に携わっている教員が、歯科衛生士として必要な知識である在宅訪問指導をふまえ高齢者歯科治療の特徴について講義をする。
障害の程度に適応した患者の取り扱い方、歯科治療の実際について教授する。

※実務経験 2004.4～2012.3九州大学病院　2012.4～2017.6九州大学大学院　2017.7～2018.3九州大学病院　2018.4～九州大学大学院勤務

【到達目標】

【高齢者歯科】高齢者の身体的・心理的特徴と歯科治療を理解する。

【障害者歯科】障害児者の身体的・心理的特徴と歯科治療を理解する。

目標①高齢者の全身疾患と口腔疾患の特徴を説明できる。

目標②高齢者・障害児者の口腔健康管理と医療安全を説明できる。

目標③高齢者・障害児者の摂食嚥下障害と原因と症状、リハビリテーションを説明できる。

	授業計画・内容
1回目	「1章　高齢者歯科の現状」「2章　高齢者の健康と疾病」 高齢者とは、高齢者の特性、高齢者をとりまく社会的問題と環境、高齢者を支える保健・医療・福祉の基盤、高齢者の健康と生活
2回目	「3章　高齢者の口腔」「4章　高齢者と薬剤」 高齢者の口腔領域の特性、高齢者に多い口腔領域の疾患、薬剤に関する情報、他科で処方された薬剤との併用に対する注意、服薬状況への配慮、服薬に関わる指導
3回目	「5章　高齢者の歯科診療における歯科衛生士の役割」「6章　高齢者の歯科診療の実際と歯科診療補助」 高齢者の歯科診療、診療室における高齢者との接し方、介護技術、全身状況の把握、全身疾患への配慮、口腔のおもな疾患への配慮、感染予防、摂食機能療法
4回目	「7章　高齢者の口腔保健管理」「8章　高齢者の歯科保健指導の実際と注意点」 老人保健法と歯科衛生士、「介護予防事業」と歯科衛生士、歯科衛生士による口腔保健管理、日常的な口腔の器質的、機能的ケアと義歯、情報の収集、歯科保健指導の実際、摂食・嚥下状態と食物物性の関連
5回目	「9章　要介護高齢者の現状」 要介護高齢者の現状と特性、要介護高齢者のQOL、要介護高齢者を取り巻く社会環境、要介護高齢者にかかわる職種
6回目	「10章　要介護高齢者と歯科衛生士」 歯科衛生士に求められるもの、歯科衛生士と訪問活動、介護保険制度と歯科保健医療とのかかわり
7回目	「11章　訪問歯科保健指導の実際」 訪問歯科保健指導の基本的知識、在宅における要介護高齢者を理解する、在宅での訪問歯科保健指導の流れ、施設における要介護高齢者の訪問歯科保健指導
8回目	「1章　障害者の概念」「2章　障害者の歯科診療」 障害者の概念、障害者歯科の特質、ライフサイクルと障害者歯科、障害者歯科における行動調整、障害者の生活と歯科的支援、障害者歯科と専門職の役割
9回目	「3章　障害の種類と歯科的特徴」 障害の種類
10回目	「4章　障害者と薬剤」 障害者に多い服用薬、障害者の服用薬と歯科保健の問題、障害者に薬剤を使用するときの注意
11回目	「5章　障害者歯科における歯科衛生士の役割」 障害者にたいする基本的対応、業務記録とその管理、活用、摂食・嚥下障害の対応
12回目	「6章　障害者の歯科診療と歯科診療補助　歯科治療時の工夫と留意点、障害別の対応、全身状態への配慮、感染予防、業務記録の必要性と書き方
13回目	「7章　障害者の口腔保健管理」 歯科衛生士による障害者の口腔保健管理、日常における障害者の口腔保健
14回目	「8章　障害者の歯科保健指導の留意点と指導の実際」「9章　障害者歯科医療・保健施設における歯科衛生士の役割」 障害者にたいする歯科保健指導の留意点と指導の実際、歯科保健指導の連携、かかりつけ歯科医と施設との連携に歯科衛生士はどうかかわるか、地域の保健・福祉施設との連携、訪問歯科診療
15回目	まとめ及び定期試験
準備学習時間外学習	●予習・復習の実践 ●体調を整え、欠席をしないように心掛ける ●勉強の習慣化
評価方法	●授業態度 ●出席状況（66　7%以上）クリアで定期試験受験可 ●定期試験（60%以上）クリアで科目単位取得
受講生へのメッセージ	歯科衛生士は子どもから高齢者まで、健康な人も病気の人も障害のない人もある人も、すべての人を対象とし、歯・口腔の健康の維持と回復をとおして、健康増進と機能回復、生活の支援と社会参加の推進に関わっていくという重要な役割を担っています。特に「高齢者」や「障害者」は心身機能にも個人差があり、特別な配慮や対応が必要となります。将来は専門職として活躍されるとともに、医療人としての生きがいをみつけ、社会に貢献されることを願っています。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：医歯薬出版　歯科衛生学シリーズ「高齢者歯科」「障害者歯科」
プリント配布

2025年度　授業概要

学　科　：　歯科衛生士科

科目名（英）	摂食嚥下機能訓練 （ Training of Eating and Swallowing ）	必修選択	必修	年次	3	担当教員	中道　敦子
						実務経験	○
		授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
コース						曜日・時限	月曜　3・4時限目

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

人口構成の変化に伴い歯科衛生士が担う口腔機能の維持・向上の社会的役割が拡大している。本科目では、摂食嚥下障害者への歯科衛生士の関わりを含む（摂食嚥下）リハビリテーションの概要を正しく理解した上で、小児期・成人期・高齢期における摂食嚥下障害の特徴やチームアプローチに必要な関係職種の役割をふまえた、実際の摂食嚥下訓練に関する基礎的知識・技術を修得する。

※実務経験 実務経験：1982年～2009年　大分大学医学部附属病院歯科口腔外科　歯科衛生士

【到達目標】

摂食嚥下機能に関する口腔健康管理のための基礎的知識を理解する。
摂食嚥下障害者に対する口腔健康管理の内容を理解する。
実践で必要なリスク管理を理解し、口腔衛生管理（専門的口腔ケア）および口腔機能管理（摂食嚥下訓練）の技術を身に着ける。

	授業計画・内容
1回目	歯科衛生活動における摂食嚥下リハビリテーションの概要を理解する。
2回目	摂食嚥障害者に対する口腔健康管理と制度を理解する。
3回目	摂食嚥下に関わる口腔の解剖と生理を復習する。
4回目	発達期の摂食嚥下機能の獲得過程を復習し口腔機能発達不全症について理解する。
5回目	咀嚼機能を総合的に理解し、その評価法を学修する。（咀嚼能力検査）
6回目	摂食嚥下障害における栄養管理と多職種連携について理解する。
7回目	歯科衛生士が行う摂食嚥下障害のスクリーニングテストを理解する。
8回目	歯科衛生士が行う摂食嚥下障害のスクリーニングテストを学修する。（各種検査の相互実習）
9回目	摂食嚥下障害者のリスク管理と専門的口腔ケアの方法を理解する。
10回目	摂食嚥下障害者のリスク管理と専門的口腔ケアの方法を身に着けるする。（マナボットによる実習）
11回目	口腔機能管理としての摂食嚥下訓練の方法を理解する。
12回目	口腔機能管理としての摂食嚥下訓練の方法を身に着ける。（基礎訓練の相互実習）
13回目	歯科衛生過程の復習および摂食嚥下障害者に対するアセスメントを理解するする。
14回目	摂食嚥下障害者の症例に対して歯科衛生過程を用いたプランニングを行う。（グループ演習）
15回目	摂食嚥下訓練プランを発表し相互評価する。
準備学習 時間外学習	●予習・復習 ●体調を整え、欠席をしないように心掛ける ●授業レポート
評価方法	●出席状況：66．7%以上で定期試験受験資格取得 ●定期試験：60%以上で科目単位取得
受講生へのメッセージ	本科目は、隣地実習に備えた位置付けである事を認識して積極的に取り組む。 また、これまでの学習内容に基づいて構成されているので、口腔解剖、口腔生理、歯科診療補助論、歯科保健指導論などの関連教科書も準備して受講する。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：医歯薬出版　歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション
プリント配布
参考教科書：「口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」、「歯科診療補助論」、「歯科予防処置論・歯科保健指導論」

2025年度 授業概要

学 科 ： 歯科衛生士科

科目名（英）	病理学 (Pathology)	必修選択	必修	年次	1	担当教員	角 静香
						実務経験	○
		授業形態	講義	総時間（単位）	30	開講区分	前期
コース					2	曜日・時限	月曜 4時限目

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

【病理学総論】各疾病の共通性や医学の基礎・医学用語
【病理学各論】臓器などにおける各疾病の特徴
【口腔病理学】口腔領域の疾患を含め病因論についての知識を習得する。
ｽﾗｲﾄﾞやプリントを活用し授業を行う。範囲が広い為中間テストなども実施する。

※実務経験 歯科医師。九州大学歯学部附属病院・山田歯科にて臨床に携わる。

【到達目標】
【総論】
①疾病の多様性と共通性について説明できる
②疾病の経過と転帰について説明できる
③疾病の原因である病因と疾病の成り立ちについて説明できる
④内因について説明し具体例を列挙できる
⑤外因について説明し具体例を列挙できる
⑥先天異常・奇形の成因について説明できる
⑦循環障害について説明できる
⑧代謝障害と退行性病変・進行性病変について説明できる
⑨炎症と免疫応答異常について説明できる
⑩良性腫瘍と悪性腫瘍について説明できる

授業計画・内容	
	【病理学総論】
1・2回目	「第1章」 病理学序論と病院論について理解する
3・4回目	「第2章」 遺伝性疾患ならびに奇形について理解する
5・6回目	「第3章」 循環障害について概説できる
7・8回目	「第4章」 代謝障害と退行性病変について理解する
9・10回目	「第5章」 増殖と修復について理解する
11・12回目	「第6章」 炎症と免疫応答異常について理解する
13・14回目	「第7章」 腫瘍について理解する
15回目	まとめ試験対策
準備学習 時間外学習	●予習・復習の実践 ●体調を整え、欠席をしないように心掛ける ●勉強の習慣化
評価方法	●授業態度 ●出席状況（66．7%以上）クリアで定期試験受験可 ●定期試験（60%以上）クリアで科目単位取得
受講生へのメッセージ	病理学は医学や医療の基本的な考え方を提供するとともに解剖学・生理学・微生物学・薬理学などの基礎医学の知識を医療へ結びつけるために統合し、病理組織診断として臨床各科へ医療に直結する情報を提供することになります。さらに、疾病の予防に有用な知見を提供しています。口腔保健の最前線に立つ歯科衛生士には今後ますます全身的な疾病と健康の管理や、他の健康・医療分野と連携するための基本知識が求められているのです。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ「病理学・口腔病理学」
プリント配布

2025年度　授業概要

学　科　：　歯科衛生士科

科目名（英）	口腔病理学 （ Pathology ）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	篠原　正徳
						実務経験	○
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2	開講区分	後期
コース						曜日・時限	金曜、3・4時限目

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

【病理学総論】各疾病の共通性や医学の基礎・医学用語
【病理学各論】臓器などにおける各疾病の特徴
【口腔病理学】口腔領域の疾患を含め病因論についての知識を習得する。
スライドやプリントを活用し授業を行う。範囲が広い為中間テストなども実施する。

※実務経験　1978.4～1998.9九州大学歯学部付属病院勤務　1998.10～2014.3熊本大学医学部歯科口腔外科勤務　2014.4～伊東歯科口腔病院勤務

【到達目標】

【口腔病理】
①歯の発育異常・咬合異常・萌出時期異常を列挙できる
②歯の損傷と着色・付着物について説明できる
③う蝕の疫学について説明できる
④歯髄病変について説明できる
⑤歯周組織の病態について説明できる
⑥口腔粘膜の病変について説明できる

授業計画・内容	
1回目	「第1章」 歯の発育異常について理解する
2回目	「第2章」 歯の損傷と着色・付着物について概説できる
3回目	「第3章」 う蝕について概説できる
4回目	「第4章」 象牙質・歯髄複合体の病変について理解する
5・6回目	「第5章」 歯周組織の病変について概説できる
7・8回目	「第6章」 口腔粘膜の病変について理解する
9・10回目	「第7章」 口腔領域の嚢胞と腫瘍について理解する
11回目	「第8章」 口腔癌について理解する
12回目	「第9章」 顎骨の病変について理解する
13回目	「第10章」 唾液腺の病変について理解する
14回目	「第11章」 口腔領域の奇形について理解する
15回目	「第12章」 口腔組織の加齢変化について理解する
準備学習時間外学習	●予習・復習の実践 ●体調を整え、欠席をしないように心掛ける ●勉強の習慣化
評価方法	●授業態度 ●出席状況（66．7%以上）クリアで定期試験受験可 ●定期試験（60%以上）クリアで科目単位取得
受講生へのメッセージ	病理学は医学や医療の基本的な考え方を提供するとともに解剖学・生理学・微生物学・薬理学などの基礎医学の知識を医療へ結びつけるために統合し、病理組織診断として臨床各科へ医療に直結する情報を提供することになります。さらに、疾病の予防に有用な知見を提供しています。口腔保健の最前線に立つ歯科衛生士には今後ますます全身的な疾病と健康の管理や、他の健康・医療分野と連携するための基本知識が求められているのです。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：医歯薬出版　歯科衛生学シリーズ「病理学・口腔病理学」
プリント配布

2025年度　授業概要

学科：　歯科衛生士科

科目名（英）	英語（ English ）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	篠崎　まゆみ
						実務経験	○
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2	開講区分	後期
コース						曜日・時限	月曜1限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）
基礎的な治療内容の説明が英語でできるようになり、必要な専門用語を英語で理解できるようになることを目的とした学習です。クリニックへの電話予約の対応、治療時の説明、歯科保健指導など、患者さんへの説明に必要な表現と語彙を学びます。

※実務経験
アメリカの大学卒業後、英語通訳に携わる。また、幼児から高齢者までを対象とした英会話講師としての指導経験（主に歯科医療専門英語、一般英会話の授業を担当）がある。

【到達目標】
①歯科衛生士としての業務に関連する英単語を身につけることができる。
②歯科衛生士として患者に対応する際に必要な基礎的英語表現を使って話すことができるようになる。

授業計画・内容	
1回目	Unit 1 Appointment　電話予約の対応が英語でできるようになる
2回目	Unit 2 At the Reception Desk 1　問診票への記入を依頼したり、確認を英語でできるようになる
3回目	Unit 3 Before the Treatment 1　診察の前、最中に必要な指示を英語でできるようになる
4回目	Unit 4 At the Reception Desk 2 診察後の受付での対応が英語でできるようになる（予約、薬の説明、会計等）
5回目	Unit 5 Before the Treatment 2 患者の様子や症状の変化を英語で尋ねることができるようになる
6回目	Unit 6 Taking an X-ray レントゲン撮影の理由の説明、案内や準備を英語でできるようになる
7回目	今までの復習
8回目	Unit 7 Dental Care 歯の手入れについて英語で説明することができるようになる
9回目	Unit 8 How to Brush Your Teeth　歯磨きについて英語で説明することができるようになる
10回目	Unit 9 Smoking and Eating Habits 生活習慣についての確認、その影響についての説明が英語でできるようになる
11回目	Unit 10 How to Prevent Gum Disease 歯周病の予防と治療についての説明が英語でできるようになる
12回目	Unit 11 Dental Health of Infants 乳幼児の歯磨き習慣などについての説明が英語でできるようになる
13回目	Unit 12 Dental Health Activities　子どもに、歯の健康について英語で指導ができるようになる（学校歯科保健指導）
14回目	Unit 13 At an Adult Daycare Center 口の体操や唾液腺のマッサージの説明ができるようになる（オーラルフレイル予防）
15回目	総復習　試験準備

準備学習 時間外学習	（目標①）この授業を受けるには、事前にテキストに目を通し、分からない単語や表現があれば調べておくことが望ましい。 （目標②）この授業を受けた後は、必ずまたテキストに目を通し、復習をしてくことが望ましい。音源も事前に聞くのが望ましい。 時間外学習は①と②及び、将来外国人と接する際、必要なフレーズを使用してコミュニケーションが取れることを想定して積極的に発話（アウトプット）に挑戦することが望ましい。
評価方法	定期試験にて知識・技能の到達評価を行う。 ●定期試験（90%）、小テスト（10%） 上記にて成績評価を行う。
受講生へのメッセージ	この授業では、歯科衛生士の業務に関する基本的な英語表現を学び、語彙を身につけられるよう、テキスト付属の音源を活用しながら学習していきます。 授業においては、ペアワークやワークシートなどに積極的に取り組むことが望ましいです。 国際化する社会についていけるように、色々な国の歯科衛生士について、また、諸外国での歯科保健活動についても触れていきます。難しい専門用語が多いですが、楽しく英会話を楽しみながら歯科英語を身につけましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

English　歯科英語の練習帳【萌文書林】

2025年度　授業概要

学科：　歯科衛生士科

科目名（英）	歯科保健指導論Ⅱ （ Guidance of Dental Health Ⅱ ）	必修選択	必修	年次	2	担当教員	伯土　美果
						実務経験	○
コース		授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 2	開講区分 曜日・時限	前期

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）
口腔保健の意義の理解と他者への理解を深め、個人を対象としてその人の生活・行動をその人に適した歯科保健行動に変容させるための専門的な立場からの助言と援助ができるよう専門的知識・技術を修得する。

※実務経験
歯科医師として15年以上一般歯科医院勤務にて臨床に携わる。

【到達目標】
健康と疾病の概念を理解し、人びとの歯・口腔の健康を維持・増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術および態度を修得する。

目標①対象者（個人、集団）の情報を評価し、歯科衛生診断結果をもとに歯科衛生介入のためのプログラムを計画立案する一連の方法を説明する。
目標②口腔衛生管理を行うために必要な知識、技術および態度を修得する。
目標③各患者に合わせた口腔健康管理と指導を行うために、専門的知識、技術および態度を修得する。

授業計画・内容	
1回目	患者指導用チャート作成・最終チェック　指導者としての知識と態度
2回目	口腔内写真分析について
3回目	TBI実習に向けての、指導ポイントの実際について
4回目	プロービング記録・歯式の記入について（リピート）
5回目	TBI実習における問診票について
6.7回目	TBI実習に向けてのリハーサル相互実習
8.9回目	2年生による1年生へのTBI実習（1回目）
10.11回目	3年生媒体発表評価
12回目	TBI実習振り返り
13.14回目	2年生による1年生へのTBI実習（2回目）
15回目	TBI実習振り返り
準備学習 時間外学習	●予習・復習の実践 ●体調を整え、欠席をしないように心掛ける ●勉強の習慣化
評価方法	●授業態度 ●出席状況（66．7%以上）クリアで定期試験受験可 ●定期試験（60%以上）クリアで科目単位取得
受講生へのメッセージ	歯科衛生士の3大業務のひとつである歯科保健指導は、人が自らの健康を考え正しい生活習慣や態度へ行動できる行動（ヘルスプロモーション）を養う専門的な知識を指導するための知識や技術を修得する科目です。少子・高齢社会の到来により、個人個人の健康への意識も変化してきました。時代のニーズに合わせて専門家として正しい知識や技術を伝え、いつまでも健康で自分で食事ができるためには、歯や口の健康は不可欠な課題です。また、歯だけではなく全身の健康を考えるために、他の医療職との連携も必要です。そのためには科学的思考や分析、指導計画の立案できる能力が求められます。さらに、患者さんへ寄り添い、継続したサポートをすることが必要です。そのためには、患者を理解するための医療面接技術、コミュニケーション能力など必要とされる能力は多岐にわたります。実践的な授業を通して学んでいきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】
教科書：医歯薬出版　歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」
プリント配布

2025年度　授業概要

学科：　歯科衛生士科

科目名（英）	歯科保健指導論Ⅲ （ Guidance of Dental HealthⅢ ）	必修選択	必修	年次	2	担当教員	怡土　美果
						実務経験	○
		授業形態	講義・演習	総時間（単位）	15	開講区分	後期
コース					1	曜日・時限	

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）
口腔保健の意義の理解と他者への理解を深め、個人を対象としてその人の生活・行動をその人に適した歯科保健行動に変容させるための専門的な立場からの助言と援助ができるよう専門的知識・技術を修得する。

※実務経験
歯科医師として15年以上一般歯科医院勤務にて臨床に携わる。

【到達目標】
歯周疾患と全身疾患の関連性を理解し、人びとの歯・口腔の健康を維持・増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術および態度を修得する。
目標①対象者（個人、集団）の情報を評価し、歯科衛生診断結果をもとに歯科衛生介入のためのプログラムを計画立案する一連の方法を説明する。
目標②口腔衛生管理を行うために必要な知識、技術および態度を修得する。
目標③各患者に合わせた口腔健康管理と指導を行うために、専門的知識、技術および態度を修得する。

授業計画・内容	
1回目	生活習慣の指導①　　1. 非感染性疾患（NCDs）
2回目	生活習慣の指導②　　2. 喫煙者に対する指導（禁煙指導）
3回目	乳児期の歯科衛生介入
4回目	乳児期の食生活指導（離乳指導）
5.6回目	歯科衛生過程について①（情報収集の分類まで）
7.8回目	歯科衛生過程について②（問題点の抽出からアセスメントまで）
9.10回目	歯科衛生過程について③（診断および介入計画の立案）
準備学習 時間外学習	●予習・復習の実践 ●体調を整え、欠席をしないように心掛ける ●勉強の習慣化
評価方法	●授業態度 ●出席状況（66．7%以上）クリアで定期試験受験可 ●定期試験（60%以上）クリアで科目単位取得
受講生へのメッセージ	歯科衛生士の3大業務のひとつである歯科保健指導は、人が自らの健康を考え正しい生活習慣や態度へ行動できる行動（ヘルスプロモーション）を養う専門的な知識を指導するための知識や技術を修得する科目です。少子・高齢社会の到来により、個人個人の健康への意識も変化してきました。時代のニーズに合わせて専門家として正しい知識や技術を伝え、いつまでも健康で自分で食事ができるためには、歯や口の健康は不可欠な課題です。また、歯だけではなく全身の健康を考えるために、他の医療職との連携も必要です。そのためには科学的思考や分析、指導計画の立案できる能力が求められます。さらに、患者さんへ寄り添い、継続したサポートをすることが必要です。そのためには、患者を理解するための医療面接技術、コミュニケーション能力など必要とされる能力は多岐にわたります。実践的な授業を通して学んでいきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】
教科書：医歯薬出版　歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」
プリント配布

2025年度 授業概要

学 科 ： 歯科衛生士科

科目名（英）	歯科放射線学 (Dental Radiology)	必修選択	必修	年次	1	担当教員	岡村 和俊
						実務経験	○
		授業形態	講義・演習	総時間（単位）	15	開講区分	後期
コース					1	曜日・時限	火曜、4時限目

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

放射線の取り扱いについて歯科衛生士の業務範囲を認識し、患者指導に役立てられるように理解する。

※実務経験 2001.4～九州大学病院勤務

【到達目標】

医療でのエックス線や放射線の有効性や安全性を正しく理解し、撮影手技、放射線防護の方法および保管管理の方法を修得する。

解剖学的構造の位置と形態を理解し、エックス線写真のみかたを修得する。

目標①放射線の特性と人体への影響および防護方法を説明できる。

目標②医療におけるエックス線の利用法と歯科におけるエックス線検査方法を説明できる。

目標③エックス線撮影の準備と画像管理、フィルムの保管管理方法を説明できる。

授業計画・内容	
	【1年後期】
1回目	「放射線とその性質」 放射線の種類と性質、放射線の量
2回目 3回目 4回目 5回目	「放射線の人体への影響と防護」 生物学的メカニズム、人体に対する影響、確定的影響と確率的影響、放射線防護、エックス線撮影の頻度と被爆線量、線量の低減と患者の防護、品質保証プログラム、患者の防護と環境の管理
6回目	「エックス線画像の形成 エックス線と画像の形成」 エックス線の発生、被写体コントラスト
7回目	「エックス線フィルムと増感紙」 エックス線フィルムと蛍光増感紙、写真コントラスト
8回目	「デジタル画像系」 デジタル画像とは、口腔内エックス線撮影、パノラマエックス線撮影
準備学習 時間外学習	●予習・復習の実践 ●体調を整え、欠席をしないように心掛ける ●勉強の習慣化
評価方法	●授業態度 ●出席状況（66．7%以上）クリアで定期試験受験可 ●定期試験（60%以上）クリアで科目単位取得
受講生へのメッセージ	骨や歯の中は肉眼ではみえないため、その内部を写すエックス線検査は歯科診断においてなくてはならないものである。診療スタッフ全員の意思疎通がはかれた診療を求められる今、放射線一般に関心を持ち、正しく理解し、広い視野をもった歯科衛生士を目指してほしい。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ「歯科放射線学」

2025年度 授業概要

学 科 ： 歯科衛生士科

科目名（英）	歯科放射線学 （ Dental Radiology ）	必修選択	必修	年次	2	担当教員	鳥越 美千代
						実務経験	○
		授業形態	講義・演習	総時間（単位）	15 1	開講区分	前期
コース						曜日・時限	木曜 4時限目

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

放射線の取り扱いについて歯科衛生士の業務範囲を認識し、患者指導に役立てられるように理解する。

※実務経験
2008.4～2010.3九州大学病院 2010.4～2011.5むらかわ歯科クリニック 2012.4～2015.3九州大学病院
2013.10～すえなが歯科クリニック 2022.7～九州大学病院

【到達目標】

医療でのエックス線や放射線の有効性や安全性を正しく理解し、撮影手技、放射線防護の方法および保管管理の方法を修得する。

解剖学的構造の位置と形態を理解し、エックス線写真のみかたを修得する。

目標①放射線の特性と人体への影響および防護方法を説明できる。

目標②医療におけるエックス線の利用法と歯科におけるエックス線検査方法を説明できる。

目標③エックス線撮影の準備と画像管理、フィルムの保管管理方法を説明できる。

授業計画・内容	
	【2年前期】
1回目	歯科におけるエックス線検査「口内法エックス線撮影」 画像の特徴と検査目的、口内法エックス線撮影装置、口内法エックス線フィルム、口内法エックス線センサー、エックス線投影の原理、平行法・咬翼法・咬合法
2回目	「パノラマエックス線撮影・頭部エックス線規格写真・その他の画像検査法」 後頭前頭方向撮影法、頭部側方向撮影法、Waters撮影法、頭部軸方向撮影法、造影検査、CT・MRI・US・核医学検査
3回目	「口内法エックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割」 口内法エックス線撮影の準備、フィルムとヘッドの位置づけ、配慮が必要な患者のエックス線撮影、感染予防、口内法エックス線写真の見方（読影）
4回目	口内法エックス線撮影実習 ①撮影用ファントムを使って撮影・現像 ②読影演習
5回目	「パノラマエックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割」 パノラマエックス線撮影の準備、患者の誘導と位置づけ
6回目	パノラマエックス線撮影実習 ①撮影用ファントムを使って撮影・デジタル処理 ②読影演習
7回目	「写真処理と画像保管」 写真処理の実際、写真処理における品質管理、品質保証計画の実際、医療機器の保守点検、エックス線写真の整理・観察・保管
8回目	「放射線治療と口腔管理」 放射線治療、放射線治療による副作用（有害事象）、放射線治療患者の口腔管理
準備学習 時間外学習	●予習・復習の実践 ●体調を整え、欠席をしないように心掛ける ●勉強の習慣化
評価方法	●授業態度 ●出席状況（66．7%以上）クリアで定期試験受験可 ●定期試験（60%以上）クリアで科目単位取得
受講生へのメッセージ	骨や歯の中は肉眼ではみえないため、その内部を写すエックス線検査は歯科診断においてなくてはならないものである。診療スタッフ全員の意思疎通がはかれた診療を求められる今、放射線一般に関心を持ち、正しく理解し、広い視野をもった歯科衛生士を目指してほしい。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ「歯科放射線学」

2025年度　授業概要

学　科　：　　歯科衛生士科

科目名（英）	臨床心理学 （ Clinical Psychology ）	必修選択	必修	年次	2	担当教員	山下　尚夏
						実務経験	○
		授業形態	講義	総時間（単位）	30	開講区分	前期
コース					2	曜日・時限	月曜　1時限目

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

患者に特有な心の動き、それに対する心理学的な対応の要点などを理解する。
医療現場で多種多様な患者と対応する医療従事者にとって必要な「心理学」に関する知識を身につける。
また、一般の人の心理・患者心理を理解し、それに対応できるスキルを身につける
※図表など多く活用し理解を深められるよう工夫し、グループワークなどの学習方法も導入し、心理学の面白さを理解してもらう
※実務経験 臨床心理士として、2020年4月～佐賀大学医学部付属病院及びひまわりクリニックにて勤務中

【到達目標】 臨床心理士として、2020年4月～佐賀大学医学部付属病院及びひまわりクリニックにて勤務中

良好な対人関係を構築するために、人の行動と心理に関する基本的な知識と考え方を習得する。

目標①行動と知覚、学習、記憶、認知、言語、思考およびパーソナリティとの関係を概説できる。

目標②動機づけを概説できる。

目標③ライフサイクルの各段階におけるこころの発達の特徴を概説できる。

目標④話し手と聞き手の役割を説明でき、適切にコミュニケートできる。

授業計画・内容	
1回目	1章　見る・聞く・感じるこころ　知覚成立の基礎、知覚体制化、知覚の諸相を理解する
2回目	2章　学ぶ・覚えるこころ　学習のプロセス、記憶のメカニズム、記憶の病理とゆがみを理解する
3回目	3章　やる気の心理　動機付け、動機付けの分類、欲求について理解する
4回目	4章　喜怒哀楽のこころ　感情、フラストレーション、ストレスについて理解する
5回目	5章　その人らしさの心理～パーソナリティ～　パーソナリティの記述、パーソナリティの調べ方、パーソナリティの異常と障害を理解する
6回目	6章　かしこさの心理　知能、知能の測定、知的障害について理解する
7回目	7章　考えるこころ　思考、問題解決、創造性について理解する
8回目	8章　発達するこころ(1)　「発達」を考える、発達段階と発達課題、幼児期から思秋期のこころの発達について理解する
9回目	9章　発達するこころ(2)　青年期、成人期、高齢者の各段階における心理を学ぶ
10回目	10章　人と関わる心理　対人認知、帰属理論、対人魅力ー好き嫌いの心理ーを理解する
11回目	11章　人と集うこころ　集団の心理、リーダーシップ、社会的影響について理解する
12回目	12章　健康なこころ　メンタルヘルス、心理臨床の対象、心理療法のいろいろについて説明できる
13回目	13章　カウンセリングのこころ　カウンセリングとは、カウンセリングマインド、ロジャースの基本姿勢を取り入れた介入法について理解する
14回目	14章　想いを伝え合うこころ　医療コミュニケーションの基礎、コミュニケーションスキル、特殊な場面でのコミュニケーションスキルを身につける
15回目	15章　心理学の歩みと方法　心理学の歴史、心理学の方法、心理学で用いる統計を理解する
準備学習 時間外学習	●予習・復習の実践 ●体調を整え、欠席をしないように心掛ける ●勉強の習慣化
評価方法	●授業態度 ●出席状況（66．7%以上）クリアで定期試験受験可 ●定期試験（60%以上）クリアで科目単位取得
受講生への メッセージ	現場で活躍していくためには手技の習得はもちろんのこと患者の全身状態をよく知り口腔との関係を考慮しながら対応していく必要があります。また、高齢者などは特に1人の患者に複数の人が関わっており、これらの人々と連携し、患者にとってより良い支援ができるような視点と能力のある歯科衛生士が求められています。そのためには業務の基盤となる知識を整えることが大切です。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：医歯薬出版　歯科衛生学シリーズ「心理学」

2025年度　授業概要

学　科　：　歯科衛生士科

科目名（英）	解剖学 （ Anatomy ）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	辻　康夫
						実務経験	○
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
コース						曜日・時限	木曜　2時限目

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

人体の構造ならびに組織の発生についての知識を習得する。全身の骨格模型を用いた授業・ｽﾗｲﾄﾞや視聴覚教材を用いた授業を展開する。

※実務経験　：九州大学病院7年、てりは矯正歯科9年歯科臨床に携わる。

【到達目標】

①人体の組織の種類を説明することができる
②骨格系・筋と運動の名称・機能を理解する
③消化器系の構造・機能を説明できる
④泌尿器系、生殖器系の構造、機能を説明できる

授業計画・内容	
1・2回目	「解剖学で学ぶこと」 解剖学の意義、解剖学とは、口腔解剖学とは、人体の外形と区分、解剖学用語、体の方向用語、人体の構成を理解する
3・4回目	「骨格系」 概説、頭蓋骨、体幹骨、上肢骨、下肢骨について知識を深める
5・6回目	「筋系」 概説、体の各部位の筋系について知識を深める
7・8回目	「内臓学」 概説、消化器系の構造について知識を深める
9・10回目	消化・吸収について知識を深める
11・12回目	泌尿器系の構造、腎機能と排尿について知識を深める
13・14回目	腎機能と排尿、生殖器の構造について知識を深める
15回目	復習・試験対策
準備学習時間外学習	●予習・復習の実践 ●体調を整え、欠席をしないように心掛ける ●勉強の習慣化
評価方法	●授業態度 ●出席状況（66．7％以上）クリアで定期試験受験可 ●定期試験（60％以上）クリアで科目単位取得
受講生へのメッセージ	医学・医療を修めようとする際、最初に学ぶ学問が解剖学と生理学である。解剖学は主に人体の形・構造とその成り立ちを追及するのに対し、生理学は人体の機能（働き）とその仕組みを明らかにする学問である。医学を学ぶ上で、まず人体の構造を知り、その仕組みを知ることは基礎であることはいうまでもない。学生が学ぶべき内容は多く難解であるが興味をもって臨んで欲しい。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：医歯薬出版　歯科衛生学シリーズ「解剖学・組織発生学・生理学」
プリント配布

2025年度 授業概要

学 科 ： 歯科衛生士科

科目名（英）	口腔衛生学Ⅱ（衛生統計学含む） （ Oral HygienaⅡ ）	必修選択	必修	年次	2	担当教員	中本 由希
						実務経験	○
		授業形態	講義・演習	総時間（単位）	15 1	開講区分	前期
コース						曜日・時限	火曜 4時限目

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

歯科衛生活動に必要な保健医療情報の収集と取捨選択から、収集しデータの処理と解析まで目的に応じた科学的なアプローチを習得する。衛生統計学に基づいた保健情報をうまく活用し歯科保健指導に活用する。

※実務経験 2005.4～2010.3九州大学病院小児歯科 2010.4～2013.4医療法人元気が湧くKid's歯科とび
2013.10～2015.3はしもと小児歯科・矯正歯科 2015.4～たむら歯科医院

【到達目標】

1章 保健情報と保健統計（保健情報の種類・国家統計調査・学校保健統計調査）について知識を深める

2章 保健情報と疫学（保健情報から疫学分析へ・健康障害の発生要因・疫学の方法論）について理解する

3章 歯科疾患の指数（数値化と指数・う蝕の指数・歯周疾患の指数・口腔清掃状態の指数・不正咬合と歯列不正の指数・歯のフッ素症指数・その他の歯科保健指数）について理解し計算ができる

4章 保健情報の分析手順（保健情報の収集・調査・母集団と標本抽出）について理解する

5章 保健統計の方法（データの特性・記述統計・推定と信頼区間・検定・保健情報の多変量解析）について理解する

6章 保健情報の分析演習（解析と検定の演習・プレゼンテーション：データの表現）について演習を交えて理解する

7章 情報の保護と倫理（情報社会の特性と問題点・個人情報の保護・インターネットと情報倫理）について理解する

授業計画・内容	
1回目	「保健情報と保健統計」 保健情報とは、保健統計とは、保健情報の種類について理解する
2回目	「保健情報と疫学」 疫学総論、健康障害の発生要因、疫学の方法論、スクリーニングについて理解する
3回目	「歯科疾患の指数」 数値化と指数、う蝕の指数、歯周疾患の指数、口腔清掃状態の指数、不正咬合と歯列不正の指数、歯のフッ素症指数、その他の歯科保健指標について理解する
4回目	「保健情報の分析手順」 保健情報の収集（インターネットによる情報収集）、調査、母集団と標本抽出について理解する
5回目	「保健統計の方法」 データの特性、記述統計ー代表値・散布度・相関、推定と信頼区間、検定、保健情報の多変量解析について理解する
6回目	「保健情報の分析演習」 解析と検定の演習、プレゼンテーション：データの表現について理解し演習してみる
7回目	「情報の保護と倫理」 情報社会の特性と問題点、情報の開示、個人情報の保護、インターネットと情報倫理（情報モラル）について理解する
8回目	まとめおよび定期試験対策
準備学習時間外学習	●予習・復習の実践 ●体調を整え、欠席をしないように心掛ける ●勉強の習慣化
評価方法	●授業態度 ●出席状況（66．7%以上）クリアで定期試験受験可 ●定期試験（60%以上）クリアで科目単位取得
受講生へのメッセージ	口腔衛生学は社会歯科学系に属する学問として位置づけられています。専門基礎分野にあり「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み」の一部を学びます。健康を左右する環境について理解し、次いで個人を対象とした口腔の健康と予防について理解する。そして、集団を対象とする地域保健活動の在り方と、他職種と歯科衛生士と歯科衛生士との関わりについての理解を深めて欲しい。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ「保健情報統計学」
プリント配布

2025年度　授業概要

学　科　：　歯科衛生士科

科目名（英）	生理学 (Physiology)	必修選択	必修	年次	1	担当教員	宇都宮　美咲
						実務経験	○
		授業形態	講義	総時間（単位）	30	開講区分	前期
コース					2	曜日・時限	月曜　1時限目

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

人体の生理および生理の概要について知識を習得する

※実務経験　1994.3～1995.3児玉歯科医院勤務　1995.4～10みなみ歯科勤務　2000.4～12榊歯科勤務　2001.4～2002.3九州大学歯学部小児歯科勤務　2002.3～小児歯科開業

【到達目標】

①骨格系・筋と運動・消化器系・循環系・神経系の機能を理解する
②自律神経の特徴を説明できる
③脳神経の構造と各神経の特徴を説明できる
④体循環と肺循環について説明できる
⑤心臓の基本的構造と収縮の仕組みを説明できる
⑥血圧を調節する仕組みを説明できる⑦呼吸器の構造と機能を関連づけ、ガス交換の仕組みを説明できる

授業計画・内容	
1回目	生理学とは　生理学とは生命の現象を研究する、生体に対する最も基礎的なものである
2回目	細胞　細胞の成分について
3回目	血液　血液の働き
4回目	循環（心臓）呼吸　心臓の構造と働き・中枢
5回目	筋　筋の分類、構造と働き
6回目	神経　神経の分類と興奮について
7回目	神経　中枢神経について
8回目	感覚　感覚の分類と組織の構造
9回目	消化と吸収　胃、十二指腸、小腸、大腸の働き
10回目	排泄　発汗、排便、排尿について
11回目	体温　体温の調節
12回目	内分泌（生殖ホルモン）　ホルモンの働き
13回目	生理学まとめ　重要項目復習
14回目	生理学まとめ　国家試験対策
15回目	まとめおよび定期試験
準備学習時間外学習	●予習・復習の実践 ●体調を整え、欠席をしないように心掛ける ●勉強の習慣化
評価方法	●授業態度 ●出席状況（66．7%以上）クリアで定期試験受験可 ●定期試験（60%以上）クリアで科目単位取得
受講生へのメッセージ	医学・医療を修めようとする際、最初に学ぶ学問が解剖学と生理学である。解剖学は主に人体の形・構造とその成り立ちを追及するのに対し、生理学は人体の機能（働き）とその仕組みを明らかにする学問である。医学を学ぶ上で、まず人体の構造を知り、その仕組みを知ることは基礎であることはいうまでもない。学生が学ぶべき内容は多く難解であるが解剖学（構造）と生理学（機能）は表裏一体であるため興味をもって臨んで欲しい。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：医歯薬出版　歯科衛生学シリーズ「解剖学・組織発生学・生理学」
プリント配布

2025年度　授業概要

学　科：　歯科衛生士科

科目名（英）	歯科衛生士概論 （ Dental Hygienist Theory ）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	久保山　裕子
						実務経験	○
		授業形態	講義	総時間（単位）	30	開講区分	前期
コース					2	曜日・時限	水曜　1時限目

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

歯科衛生士として大学病院で臨床に携わっている教員が、歯科衛生士としての人間性を培い、歯科衛生士の業務について講義をする。
また、歯科衛生士の役割・社会的位置づけ・職域・職業観を教授する。体験実習やｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸを取り入れた学習を行う。

※実務経験 1976.4～1977.12福岡歯科大学附属病院勤務

【到達目標】

①保健・医療・福祉に関わることの意義を理解する
②専門職として必要なことは何か、何を学ぶのか考える
③対象とする人のニーズの把握の仕方を学ぶ
④歯科衛生業務の考え方や行動の仕方を理解する
⑤倫理的な視点をもち、かつ科学的な裏付けをもって仕事をすることの意味を考える
⑥歯科衛生活動を展開するために必要とされる専門知識・技術ならびに態度を身につける

授業計画・内容	
1回目	「1章　歯科衛生士とは」 歯科衛生士とは理解を深める
2回目	「2章　歯・口の健康と疾病・異常」 健康とは、歯・口の健康、おもな歯・口の疾病・異常について理解する
3回目	「3章　歯科医療と歯科保健」 健康と健康障害への3つの対応、医療・歯科医療、歯科保健指導、公衆歯科衛生について理解する
4回目	「4章　歯科医療保健を支えるもの」 歯科医療の三要素、歯科医療の目標、歯科医療の内容、歯科医療の特異性、歯科医療の分野について知る
5回目 6回目	「5章　歯科医療保健に携わる人」 歯科医療関係者の免許制度、歯科医療保健に関係する職種、歯科医師、医師、薬剤師、歯科衛生士、歯科技工士、看護師、准看護師、保健師、放射線技師、栄養士、歯科助手、事務員について理解を深める
7回目	「6章　歯科衛生士の役割」 歯科衛生士の業務、歯科衛生士の業務活動場面での役割、責任と活動、米国の歯科衛生士の活動と倫理規定について理解する
8回目	「7章　歯科衛生士業務の発展」 歯科衛生士の誕生以前、歯科衛生士制度の誕生、歯科診療所への進出・歯科衛生士法改正、歯科衛生士業務に関連の深い法律について学ぶ
9回目 10回目	歯科衛生士に期待されるもの、歯科衛生士に求められる心構え（歯科衛生士の倫理）、歯科衛生士に必要な知識、歯科衛生士に必要な技能、歯科衛生士に求められる協調性～チームワーク～について理解する
11回目	「9章　歯科衛生士業務の展開」 歯科衛生士の仕事の場、仕事での心構え、職業人としての心構え、人との対応、観察と記録、清掃と保全、安全保持について知識を深める
12回目 13回目	「付1章　歯科衛生士の略史」 歯科医療制度の確立と人手、歯科医療・歯科保健の高揚、アメリカにおける歯科衛生士の誕生、新潟県歯科医師会の歯科衛生手規定とライオン児童歯科院の口腔衛生婦養成、保健所歯科の創設と歯科衛生士法の制度、歯科診療所への進出と歯科衛生士法の改正、経済高度成長時期の歯科医療、歯科界の新しい展開と歯科衛生士について理解する
14回目	「付2章　外国の歯科医療・保健補助員」 アメリカにおける歯科衛生士、その他の国の歯科衛生士、ニュージーランドの学校歯科看護師、オーストラリアの歯科治療士、アジア諸国の歯科治療士、歯科助手の状況を知る
15回目	まとめ及び定期試験対策
準備学習 時間外学習	●予習・復習の実践 ●体調を整え、欠席をしないように心掛ける ●勉強の習慣化
評価方法	●授業態度 ●出席状況（66．7%以上）クリアで定期試験受験可 ●定期試験（60%以上）クリアで科目単位取得
受講生へのメッセージ	歯科衛生士を目指す皆さんが、保健・医療・福祉に関わることの意義をみつけ、専門職として必要なことは何か、何を学ぶのか、また、対象とする人のニーズの把握の仕方、さらに歯科衛生業務の考え方や行動の仕方を理解するとともに、倫理的な視点をもち、かつ科学的な裏付けをもって仕事をすることの意味を考え、歯科衛生活動を展開するために必要とされる専門知識・技術ならびに態度を身につけていって欲しい。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：医歯薬出版　歯科衛生学シリーズ「歯科衛生学総論」

2025年度　授業概要

学　科　：　歯科衛生士科

科目名（英）	歯科臨床概論 （ Clinical Theory of Dentistry ）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	寺田　善博
						実務経験	○
		授業形態	講義	総時間（単位）	15 1	開講区分	前期
コース						曜日・時限	月曜　2時限目

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

歯科医師として臨床に携わる教員が、歯科医療の一翼を担う歯科衛生士として歯科医療の特徴及び特異性について講義をする。歯科治療の流れや臨床症例をｽﾗｲﾄﾞなどで具体的に提示し解説できるよう教授する。

※実務経験 1973.6～1974.6九州大学歯学部付属病院勤務

【到達目標】

Ⅰ編　歯科診療と歯科診療所（歯科診療の場と関わる人々・歯科診療所のスタッフ・歯科診療所における業務）について知識を深める

Ⅱ編　歯科診療の流れ（ライフステージと歯科診療・歯科診療で行うこと～主な診療の流れ～）について知識を深める

※歯科衛生士を目指す学生にとって歯科診療の入門科目となる。歯科治療とはどういうものなのか、ライフステージ毎に解説し、歯科衛生士の位置づけを知る

※歯科衛生士とはどんな職業なのかを理解し、資格取得に必要な知識（基礎科目・臨床科目・主要3科）との関連性を学ぶ

授業計画・内容	
1回目	Ⅰ編　歯科診療と歯科診療所「1章　歯科診療とは」1. 歯科臨床の場、2. 歯科診療の場と関わる人々、3. 歯科診療の対象者「2章　歯科診療所」1. 歯科診療所のスタッフ、2. 歯科診療所の紹介
2回目	「2章　歯科診療所」3. 歯科診療所における安全管理「3章　歯科診療所における業務」1. 歯科診療所全体に関わる業務、2. 歯科診療所における歯科診療と歯科衛生業務、3. 歯科診療所の1日、4. 保険医療機関（歯科診療所）での実務　Ⅱ編　歯科診療の流れ「1章　ライフステージと歯科診療」「2章　歯科診療で行うこと―主な診療の流れ―」
3回目	「2章　歯科診療で行うこと―主な診療の流れ―」1. 診査・検査・前処置、2. 小児歯科（小児歯科）
4回目	「2章　歯科診療で行うこと―主な診療の流れ―」2. 小児歯科（口腔の先天異常、口腔機能の発達、う蝕予防処置）、3. 歯科矯正、4. 口腔外科（口腔外科）
5回目	「2章　歯科診療で行うこと―主な診療の流れ―」4. 口腔外科（外傷の治療、抜歯、口腔粘膜疾患の処置）、5. 歯科保存（歯科保存）
6回目	「2章　歯科診療所で行うこと―主な診療の流れ―」5. 歯科保存（象牙質知覚過敏症、歯冠部う蝕、根面う蝕、歯内療法、歯のホワイトニング）、6. 歯周治療
7回目	「2章　歯科診療で行うこと―主な診療の流れ―」7. 歯科補綴
8回目	「2章　歯科診療で」行うこと―主な診療の流れ―」8. 障害者歯科・高齢者歯科（障害者歯科、高齢者歯科、摂食嚥下障害への対応、全身疾患への対応）
9回目	「2章　歯科診療で行うこと主な診療の流れ―」8. 障害者歯科・高齢者歯科（周術期の対応、歯科訪問診療）　まとめ
10回目	定期試験対策
準備学習時間外学習	●予習・復習の実践 ●体調を整え、欠席をしないように心掛ける ●勉強の習慣化
評価方法	●授業態度 ●出席状況（66．7%以上）クリアで定期試験受験可 ●定期試験（60%以上）クリアで科目単位取得
受講生へのメッセージ	【歯科臨床概論】とは歯科医学や歯科臨床への入門的な勉強です。歯科診療所を訪れたことがなく、歯科臨床にほとんど馴染みがない学生にも容易に理解できるように「歯科医療を行う側に立つ者」になることを前提に歯科診療所とは・患者の特性・業務の流れなどを理解してほしい。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：医歯薬出版　歯科衛生士のための「歯科臨床概論」第2版

2025年度　授業概要

学　科　：　歯科衛生士科

科目名（英）	矯正歯科学 （ Orthodontics ）	必修選択	必修	年次	2	担当教員	辻　康夫
						実務経験	○
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
コース						曜日・時限	水曜　2時限目

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

歯科矯正治療に対する知識と補助技術・歯科衛生士としての役割を習得する。
※授業媒体としては主にｽﾗｲﾄﾞ・ﾌﾟﾘﾝﾄを活用し治療の流れがわかるような工夫を行う。模型を使った矯正治療のデモを行う。
全15回の講義中12回目ごろに大学病院での臨床実習に臨む。講義で学習した内容を臨床実習で実体験することで学習効果を上げる。
臨床実習終了後、残りの講義を実施し、総まとめを行う。

Ⅰ編　矯正歯科治療の概要、成長・発育、正常咬合と不正咬合、矯正歯科診断、矯正歯科治療と『力』

Ⅱ編　不正咬合の分類、定義と特徴、治療の流れ、不正咬合の問題解決例

Ⅲ編　矯正歯科治療における歯科衛生士の役割、マルチブラケット法の模型上デモンストレーション

※実務経験　：九州大学病院7年、てりは矯正歯科9年歯科臨床に携わる。

【到達目標】

歯科衛生業務を行うために必要な不正咬合の症状および治療法を理解する。

＜具体的な目標＞

目標①顔面および歯・歯列の成長発育とその評価を説明できる。

目標②不正咬合の原因と種類を列挙できる。

目標③歯科矯正装置と器具、それらがもたらす口腔内の変化について説明できる。

目標④矯正治療前、治療中および保定期間における口腔健康管理法を説明できる。

授業計画・内容	
1回目	「1章　歯科矯正学概論」 矯正歯科治療の利点・欠点　矯正歯科治療による心理社会的効果
2回目	「2章　成長・発育」 成長発育とは、頭部・顎・顔面の成長発育
3回目	「2章　成長・発育」 顎の成長発育、歯・歯列の成長発育
4回目	「3章　咬合1」不正咬合の分類、不正咬合の原因
5回目	「3章　咬合2」不正咬合の予防　口腔習癖の種類と発生頻度嚥下の発達、筋機能療法
6回目	「4章1検査診断1」 診断のための資料づくり
7回目	「4章矯正診断1」 症例分析法、　頭部X線規格写真
8回目	「4章矯正診断2」 模型分析、治療方針立案
9回目	「5章　矯正装置の生物力学-歯の矯正力と歯の移動」 矯正力、歯の移動と組織反応、歯の移動様式
10回目	「6章　矯正装置」 矯正装置の種類、
11回目	「6章　矯正装置」 マルチブラケット装置、機能的矯正装置、側方拡大装置、顎外固定装置　「9章　保定」 自然保定、器械保定、定期観察
12回目	九大病院実習前模型実習
13回目	「7章　歯科矯正治療の実際」 成人矯正
14回目	「7章　歯科矯正治療の実際」 口唇口蓋裂
15回目	自然保定、器械保定、定期観察、矯正装置に関わる指導
準備学習時間外学習	●予習・復習の実践 ●体調を整え、欠席をしないように心掛ける ●勉強の習慣化
評価方法	●授業態度 ●出席状況（66．7%以上）クリアで定期試験受験可 ●定期試験（60%以上）クリアで科目単位取得
受講生へのメッセージ	矯正治療において、歯科衛生士は歯科医師の診療を補助するだけにとどまらず治療を成功に導くために患者の全体像を把握してアセスメントし、口腔衛生、食生活、矯正装置、口腔周囲筋に関する口腔保健の指導計画を立案実践します。矯正歯科治療は予防的医療としての本質を有していて、う蝕や歯周病の予防ができることで生涯にわたる口腔顎顔面の健康維持増進に寄与しているのです。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：医歯薬出版　歯科衛生学シリーズ「歯科矯正学」
プリント配布

2025年度　授業概要

学　科：　歯科衛生士科

科目名（英）	臨床検査 （ Council for Laboratory Testing ）	必修選択	必修	年次	2	担当教員	三浦　公義
						実務経験	○
		授業形態	講義・演習	総時間（単位）	15 1	開講区分	前期
コース						曜日・時限	水曜　3時限目

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

様々な臨床検査の結果は,各患者の健康状態を把握することはもちろん、その患者ごとに歯科衛生士の業務において、注意すべき点を示してくれる大切な情報源です。この注意を確認することが、実際の業務における事故を防ぎ、患者の治療等健康に寄与することはもちろん、皆さんの身を守ることが出来る大きな要素になります。この授業を学習することで、各臨床検査の中で、代表的検査の意義と方法を説明できるようになります。

※実務経験 1991年1月に、調剤薬局を開業。(現在に至る)また、2004年3月にはり師・きゅう師を取得し、2004年に鍼灸院も開業(現在に至る)

【到達目標】

各臨床検査の意義を理解し、その方法を習得する。

〈具体的な目標〉

目標①　各臨床検査についてその意義を理解した上で、検査の説明が出来る。

目標②　水銀血圧計を用いて血圧測定ができる。

授業計画・内容	
1回目	臨床検査の概要、一般検査(尿検査)を説明できる。
2回目	血漿と血清の違い、採血の方法、血液学的検査①(血球数、形態学的検査)を説明できる。
3回目	血液学検査②(血液凝固・線溶系検査)を説明できる。
4回目	生化学検査を説明できる。
5回目	免疫・血清検査①(感染症検査)を説明できる。
6回目	免疫・血清検査②(血液型検査)を説明できる。
7回目	微生物検査、病理検査、生体検査①(心電図、心音図、筋電図、脳波)を説明できる。
8回目	生体検査②(血圧測定)をできる
9回目	定期試験
準備学習時間外学習	この授業の理解をより効率的に行うには、人体の解剖・生理の知識が必要です。そのために、授業範囲の必要と思われるそれら範囲の予習が必要です。また、臨床検査の異常から疑われる病態と、それらの患者に歯科衛生士として接する際の注意点を確認することが、この授業を皆さんが学ぶ最大理由になりますので、必要な病態の確認と注意点に対する考察を各自で学習することで、授業内容を本当の意味での、皆さんの実力として身につけてください。。
評価方法	定期テストにて成績評価を行う。(100%)
受講生へのメッセージ	本授業は歯科衛生士としてではなく、医療関係者全般の方の最低限必要な知識です。そして、皆さんがこの知識を得て、その意義を知り、身につけることで、実際の歯科治療現場における患者の安全を確保する大きな助けとなる授業です。このことは、歯科衛生士としての皆さんのスキルを向上させるだけで無く、皆さん自身の身を守るためにも重要な内容です。そのためにも、体調管理に気をつけて欠席や居眠りをしないようにしてください。

【使用教科書・教材・参考書】

歯科衛生士教本　臨床検査　　医師薬出版株式会社

2025年度　授業概要

学　科　：　　歯科衛生士科

科目名（英）	感染予防 （ Prevention of Infection ）	必修選択	必修	年次	2	担当教員	坂本/渕上
						実務経験	○
		授業形態	講義・演習	総時間（単位）	15	開講区分	前期
コース					1	曜日・時限	月曜　2時限目

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

全8回の授業のなかで感染予防策として滅菌と消毒の理論と実際を習得する。

①歯科医療現場における標準予防対策の基本を学ぶ

②シチュエーション別に感染予防の視点で考えチェックしてみる

③さまざまな歯科器具の取り扱い・バイオハザードの種別を学ぶ

※実務経験　坂本　泰基：2017.4～九州大学病院勤務
渕上　貴央：R3.4～矯正歯科医院にて勤務

【到達目標】

①歯科医療現場における標準予防対策の基本を学ぶ

②歯科特有の標準予防を学ぶ（エアータービン・電気エンジンなど）

③歯科特有の消毒と滅菌について熟知し、実践ができるようになる

④歯科治療室の整備・手指の消毒について理解し実践ができるようになる

授業計画・内容	
1回目	「歯科医療現場における感染予防」 歯科特有の標準予防、歯科特有の消毒・滅菌、手指の消毒等、※歯科衛生士の一日
2回目	「歯科のスタンダードプリコーション」 内因性感染と外因性感染、院内感染、主要感染部位の分類（NNIS）、スタンダードプリコーション、感染経路予防、血液感染予防対策の実際、血液汚染事故発生時の対応
3回目	「口腔内感染症」 病原体とは、感染するのどんな病気、口腔内ﾌﾟﾗｰｸが全身疾患に与える影響
4回目	「口腔内術部の消毒と口腔外の消毒」 口内の特殊性、口腔内・外の消毒
5回目	「歯科器具・器械の滅菌と消毒」 滅菌・消毒・洗浄・除菌の違い、診療室の消毒滅菌の流れ、感染症患者に使用した器具の対処、滅菌・消毒の原則、器材の消毒・滅菌方法、消毒液の水準と対象微生物
6回目	「消毒法指針」「滅菌法の分類」 消毒液の使い方、消毒液の調製法、高圧蒸気滅菌、乾熱滅菌、酸化エチレンガス滅菌、ろ過滅菌および超ろ過法、プラズマ滅菌、火炎滅菌
7回目	「歯科医療廃棄物の分類」「手洗いとグローブの概念」 感染性医療廃棄物の種類、医療廃棄物の梱包に用いる容器とその材料、院内感染経路、手洗い、衛生学的手洗い、グローブの装着
8回目	「血液感染症」「感染症とあらかじめ分かっている患者への対応」「針刺し事故等とその対応」
準備学習時間外学習	●予習・復習の実践 ●体調を整え、欠席をしないように心掛ける ●勉強の習慣化
評価方法	●授業態度 ●出席状況（66．7%以上）クリアで定期試験受験可 ●定期試験（60%以上）クリアで科目単位取得
受講生へのメッセージ	歯科における消毒と滅菌はどのように考えるべきであろうか？我々医療従事者は様々な危険にさらされているが日本ではあまり気にしていないのが現実、タービンハンドピースの使い回し、グローブの使い回し…自分が患者なら…そう考えるとぞっとしませんか？標準予防対策（ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞﾌﾟﾘｺｰｼｮﾝ）の意味を理解し、実際には目に見えない微生物を心眼でとらえるような気持ちがなければ、その実行は難しい。院内感染予防の知識を習得し、臨床で実践できるようになって欲しい。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：医歯薬出版　歯科衛生士のための感染予防スタンダード

2025年度 授業概要

学 科 : 歯科衛生士科

科目名 (英)	歯科予防処置論Ⅰ (Disposition of Dental Prevention Ⅰ)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員 実務経験	阿南 友美代 ○
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	[redacted]	開講区分 曜日・時間	前期・後期
コース							

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

う蝕・歯周疾患の成り立ちを学び知識を身に付ける。また、う蝕・歯周疾患の予防法についての知識と技術を習得する。
また、臨床実習に向け、臨床に即した器用の流れを習得する。繰り返しの実習により知識・技術を定着する。
※講義(知識の整理)⇒模型を使った基礎実習⇒人体での相互実習
※相互実習では治療同等の感染予防対策を身に付けさせる

※実務経験　歯科衛生士として10年以上歯科医院にて勤務

【到達目標】

①歯科予防処置論の定義を説明できる
②予防概念を理解する
③歯科衛生士介入のための歯科予防処置(手用スケーラー操作・シックルスケーラー操作・歯面研磨・歯面清掃・フッ化物・小窩裂溝填塞法など)目的・特徴・取り扱い・効果を説明できる。
④シックルスケーラー・歯面研磨・PMTC・PTCの操作方法を理解・実地することができる。
⑤器材の滅菌消毒・メンテナンスを理解し実地することができる(シャープニング含む)

授業計画・内容	
	【前期】
1回目・2回目	実習機材のセッティング
3回目	3編2章　歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理　3編 3章　歯科衛生介入としての歯科予防処置
4・5回目	2検査項目【歯周ポケットの検査、プロービング)から得られる情報】
	歯周プローブ基本操作(プロービング)※探針操作との違いを認識させる　把持法・プロービング圧・操作方法・目盛りの読み方・測定部位・記録方法　他
6・7回目	3編 3章　歯科衛生介入としての歯科予防処置スケーリング・ルートプレーニング　スケーリングの基本
	シックルスケーラーにて練習　机上、顎模型上で操作してみる:前腕回転運動、手根関節運動
8・9回目	グレーシーキュレットスケーラーの見分け方と操作方法　・基本姿勢、マキシラアングル、ヘッドローテーションの理解 ・ポジション(バック・サイド・フロント)の理解
	ミラーテクニック(復習)…粘膜排除の仕方
10・11回目	スケーラー操作(1)下顎前歯のスケーリング　作業表の見方ポジション・ヘッドローテーション・マキシラアングルの確認
	前半 グレーシーキュレット　後半:シックルスケーラー
12・13回目	基本動作リピート①ユニット操作・基本姿勢・マキシラアングル・ライティング～探針操作・ミラーテクニック(口腔内で初！)
	準備～片付けまで
14・15回目	プロービングリピート実習(実技試験に向けて) 挿入方法の確認・挿液による目盛りの測定(最後臼歯遠心)
	ポジションの確認　他
16回目	3編 3章　歯科衛生介入としての歯科予防処置　歯面研磨・歯面清掃
17・18回目	基本動作リピート②口腔内洗浄(3way使用方法)一人でやる場合も含めて練習・バキュームの基本操作(禁忌部位の確認)
	・正しい染色方法(綿球法)を実践　最後臼歯まで一2ブロックPCR記入
19・20回目	プロービング実技試験(404待機)
21・22回目	プロービング相互実習　※測定値の信憑性をしっかり確認すること
23・24回目	歯面研磨
	使用機材と操作方法(P.197～)CA(コントラアングルHP)の取り扱いとメインテナンス(注油)について
25・26回目	スケーラー操作　上顎前歯のスケーリング　作業表の見方　ポジション・ヘッドローテーション・マキシラアングルの確認
	前半 グレーシーキュレット　後半:シックルスケーラー
27・28回目	スケーラー操作(3)下顎臼歯部のスケーリング　作業表の見方　ポジション・ヘッドローテーション・マキシラアングルの確認
	前半:グレ・シーキュレット　後半:シックルスケーラー
29・30回目	歯面研磨相互実習
	全顎PCR記入！！
31・32回目	スケーラー操作(4)左上臼歯部のスケーリング
	ポジション・ヘッドローテーション・マキシラアングルの確認
33・34回目	3編 3章　歯科衛生介入としての歯科予防処置
	フッ化物の応用　フッ化物局所応用によるう蝕予防法　フッ化物の毒性と急性中毒への対応
35・36回目	1/6顎スケーラー操作①(グレーシータイプキュレットを中心に)
	下顎3～3　PD測定、PCR全顎記入、歯面研磨 口腔内洗浄　バキューム操作の確認
37・38回目	スケーラー操作(5)右上臼歯部のスケーリング
	ポジション・ヘッドローテーション・マキシラアングルの確認
39・40回目	フッ化物の応用　フッ化物歯面塗布(P.207～)歯面塗布薬剤～術式(一般法・トレー法)
	フッ化物洗口　フッ化物配合歯磨剤
41・42回目	フッ化物歯面塗布法
43・44回目	リピート演習問題
	悪心・嘔吐発現不可物用液量の算出法について
45・46回目	1/6顎スケーラー操作(グレーシータイプキュレットを中心に)
47・48回目	スケーラー操作
	技試験に向けて
49・50回目	1/6顎スケーラー操作③(グレーシータイプキュレットを中心に)
	左下4～7　PD測定・PCR全顎記入、歯面研磨
51・52回目	キュレットスケーラー実技試験

【使用教科書・教材・参考書】

教科書 医歯薬出版　歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」／歯科衛生士のための歯科予防処置法【第2版】
プリント配布

2025年度　授業概要

学　科　：　歯科衛生士科

科目名（英）	歯科予防処置論Ⅱ （ Disposition of Dental Prevention Ⅱ ）	必修選択	必修	年次	2	担当教員	阿南　友美代
						実務経験	○
		授業形態	講義・演習	総時間（単位）	60 4	開講区分	前期・後期
コース						曜日・時限	

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

う蝕・歯周疾患の成り立ちを学び知識を身に付ける。また、う蝕・歯周疾患の予防法についての知識と技術を習得する。
また、臨床実習に向け、臨床に即した施術の流れを習得する。繰り返しの実習により知識・技術を定着する。
※講義（知識の整理）⇒模型を使った基礎実習⇒人体での相互実習
※相互実習では治療同等の感染予防対策を身に付けさせる

※実務経験　歯科衛生士として10年以上歯科医院にて勤務

【到達目標】

①各種スケーラー（グレーシーキュレット・超音波スケーラー・エアースケーラー）の種類と特徴を理解し口腔内の状況に合わせて選択できる
②各種スケーラーの使用方法を理解し実施できる
③キュレットスケーラーのシャープニング理論を理解し実施できる
④歯科保健指導との関連性を理解し、歯科衛生過程に取り込むことができる

授業計画・内容	
1・2回目	キュレットスケーラーの構造と使用方法・操作を理解する
3・4回目	キュレットスケーラー操作基礎実習　キュレットスケーラー操作表の確認
5・6回目	超音波スケーラー・エアースケーラーの取り扱いについて理解する
7・8回目	超音波スケーラー・エアースケーラー相互実習
9・10回目	キュレットスケーラー操作基礎実習（右上臼歯部）
11・12回目	下顎前歯部キュレットスケーラー相互実習
13・14回目	キュレットスケーラー操作基礎実習（左上臼歯部）
15・16回目	上顎前歯部キュレットスケーラー相互実習
17・18回目	キュレットスケーラー総復習
19・20回目	左下臼歯部キュレットスケーラー相互実習
21・22回目	九大実習帳の記入について
23・24回目	キュレットスケーラーシャープニング
25・26回目	左下臼歯部キュレット相互実習
27・28回目	キュレットスケーラー総復習（実技試験に向けて）
29・30回目	上顎臼歯部キュレットスケーラー操作相互実習
31,32回目	キュレット実技試験
準備学習 時間外学習	●予習・復習の実践 ●体調を整え、欠席をしないように心掛ける ●勉強の習慣化
評価方法	●授業態度 ●出席状況（66．7%以上）クリアで定期試験受験可 ●定期試験（60%以上）クリアで科目単位取得
受講生へのメッセージ	【歯科予防処置】とは、歯および口腔の疾患を予防して健康な状態を維持・増進するために行われる専門的な処置をいいます。 【歯科予防処置】は歯科衛生士法により、歯科衛生士が業務独占で行うことができる専門的な業務であり、歯科医師と歯科衛生士のみが行うことができる業務です。本科目では、人びとのニーズに科学的な根拠をもって応えられるように、歯科予防処置に関する専門的な知識と技術を修得します。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：医歯薬出版　歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」
プリント配布

2025年度　授業概要

学　科　：　　歯科衛生士科

科目名（英）	口腔生理学 （ Oral Physiology ）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	宇都宮　美咲
						実務経験	○
		授業形態	講義	総時間（単位）	15 1	開講区分	後期
コース						曜日・時限	月曜、1時限目

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

顎顔面および口腔領域についての生理の知識を習得する。
【口腔の機能】咬合・咀嚼・嚥下・発声・味覚・嗅覚
【口腔機能の異常】嚥下障害・嚥下の病態・構音障害

※実務経験　1994.3～1995.3児玉歯科医院勤務　1995.4～10みなみ歯科勤務　2000.4～12神歯科勤務　2001.4～2002.3九州大学歯学部小児歯科勤務　2002.3～小児歯科開業

【到達目標】

①顎顔面領域および口腔領域の各部位の機能を理解する。
②咀嚼筋および舌骨上筋群の機能を説明できる
③顎関節の構造と機能を概説できる
④舌の構造と神経支配・運動・味覚・感覚を理解する
⑤咬合と咀嚼を理解する
⑥歯・口腔の感覚、発声・嚥下、唾液について理解する

授業計画・内容	
1回目	「第1章　口腔生理学はなぜ必要か」 歯牙歯周組織顎関節の構造と生理について理解する
2回目	「第2章　歯と歯周組織の生理」 歯と歯髄の構造と機能について理解する
3回目	「第2章　歯と歯周組織の生理」 歯の動揺度と歯間離開度について理解する
4回目	「第3章　咬合と咀嚼」 咬合、下顎位、下顎の運動について理解する
5回目	「第3章　咬合と咀嚼」 限界運動、顎反射について理解する
6回目	「第3章　咬合と咀嚼」 咀嚼、咬合力と咀嚼力について理解する
7回目	「第4章　吸引・嚥下・嘔吐・口呼吸・口臭」 吸引・嚥下・嘔吐・口呼吸・口臭について理解する
8回目	「第5章　歯と口腔の感覚」 歯の感覚、口腔粘膜の感覚、味覚について理解する
9回目	「第6章　唾液」 唾液の分泌機構、唾液の性状と成分・唾液の働き、唾液と疾患について理解する
10回目	「第7章　発声」 発声機構の概略、咽頭の機構、発声の生成、言語音の形成、歯・口腔と発音について理解する
11回目	まとめ及び定期試験対策

準備学習時間外学習	●予習・復習の実践 ●体調を整え、欠席をしないように心掛ける ●勉強の習慣化
評価方法	●授業態度 ●出席状況（66．7%以上）クリアで定期試験受験可 ●定期試験（60%以上）クリアで科目単位取得
受講生へのメッセージ	近年、若年者を中心にう蝕の減少が認められる一方、高齢者人口の増加と中高齢者層の残存歯数の増加が相まって、歯周疾患患者数の増加が明確となっている。さらにインプラント治療の拡大などもあり、歯科治療における中長期的な予防管理（メインテナンス）の重要性はますます増大しており、この中核を担う歯科衛生士に対する期待は一層大きくなっている。連携医療のなかで歯科衛生士は他職種とスムーズなコミュニケーションを取るために必要な全身の知識に加え、口腔の専門職として口腔の「構造」と「機能」を掘り下げて理解する必要がある

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：医歯薬出版　歯科衛生学シリーズ「口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」
プリント配布

2025年度　授業概要

学　科：　歯科衛生士科

科目名（英）	衛生行政・社会福祉学 （Public Administration・Public Welfare）	必修選択	必修	年次	2	担当教員	春名　千英子
						実務経験	○
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2	開講区分	後期
コース						曜日・時限	木曜、2時限目

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

衛生行政・社会福祉学の授業では、歯科医師として臨床に当たってきた教員が、歯科衛生士として必要な知識である法制・行政・社会保障について講義をし、歯科保健医療の普及と向上のために必要な知識を教授する。

※実務経験 2010.4～福岡歯科大学病院勤務

【到達目標】

日本の保健・医療・福祉制度と医事法制を理解し、歯科衛生のあり方を考える態度を養うために、歯科衛生士に必要な法律・制度に関する基本的知識を習得する。

授業計画・内容	
1回目 2回目	「1章　衛生行政」 法制概論、衛生行政の概論、医療の動向について理解する
3回目 4回目 5回目	「2章　歯科関係三法」 日本の歯科医療制度の沿革、歯科医師法、歯科衛生士法、歯科技工士法、その他の関係法規について理解し、歯科衛生士法について概説できる
6回目 7回目 8回目	「3章　社会保障」 社会保障の定義、社会保障の内容、社会保障行政機構の概要、現行の社会保険について理解する
9回目 10回目 11回目	「4章　社会福祉」 社会福祉行政、公的扶助、社会福祉の実際について理解する
12回目 13回目 14回目	「5章　医療保険」 医療保険の概要、医療保険の仕組み、医療保険の実際について理解する
15回目	まとめ及び定期試験対策
準備学習 時間外学習	●予習・復習の実践 ●体調を整え、欠席をしないように心掛ける ●勉強の習慣化
評価方法	●授業態度 ●出席状況（66．7%以上）クリアで定期試験受験可 ●定期試験（60%以上）クリアで科目単位取得
受講生へのメッセージ	法律の勉強は難しいかもしれませんが、国家試験にも出題される大事な範囲です。意外と身近にある社会のルールであり、私たちを守ってくれるものです。頑張って勉強しましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：医歯薬出版　歯科衛生学シリーズ「保健・医療・福祉の制度」
プリント配布

2025年度 授業概要

学 科 ： 歯科衛生士科

科目名（英）	歯科診療補助論Ⅰ（ Theory of Dental Assist ）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	市丸 悦子
						実務経験	○
		授業形態	講義・演習	総時間（単位）	90（	開講区分	前期・後期
コース						曜日・時限	

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

歯科治療における、診療の補助・受付業務などの機能を理解し、歯科衛生士としての心構えを身につける。
※診療内容ごとに項目を細分化し、実際の器材を用いて実習を行う。
※臨床科目の講義とリンクすることにより全体の流れも理解させる

※実務経験　　歯科衛生士として20年以上、歯科医院勤務

【到達目標】

さまざまなライフステージにおける歯科医療に対応するために、専門的な歯科医療の補助に関する基礎的知識、技術および態度を習得する。

目標①歯科治療で用いられる主要歯科材料の種類、基本的性質および標準的な使用法を説明できる。

目標②歯科治療の手順を概説し、薬剤および器材の使用法を説明できる。

目標③歯科診療の準備と基本動作が実践できる。

授業計画・内容	
1回目	2年生による1年生の印象採得実習
2回目	1章　1章　歯科診療補助の概要
3回目	2章　医療安全と感染予防　①医療安全　②感染予防（微生物類の復習含む） 1.歯科医療における感染症の概念　標準予防策（スタンダードプリコーション）とリスクアセスメント
	2.歯科医療における感染予防対策　ゴーグル・マスクの装着法 3.手指衛生（手指消毒） 4.グローブ装着・着脱の手順ー廃棄について
4回目	5.滅菌・消毒（微生物学の復習含む）　1)滅菌・消毒・の定義　2)滅菌
5回目	3)消毒　4)洗浄　5)歯科用器材の滅菌・消毒と管理
6回目	3章　歯科診療における業務知識 ①歯科診療室の基礎知識　ユニットの説明はモリタ ②歯科診療所における受診の流れ
7回目	ユニットの取り扱い
8回目	4章　歯科診療補助における基礎知識　①共同動作　1.共同動作の概念　2.術者・補助者・患者のポジショニング　3.ライティング
9・10回目	表】基本動作：患者誘導、手洗い、トレーセッティング、片付けまで※バキューム、3Wayの取り扱い（取り外しまで）
11・12回目	【表】ファントムの取り扱い/顎模型の取り付け　バキュームの取り扱い・スリーウェイシリンジ・口腔内洗浄　※綿球の作り方
13回目	歯科用セメントについて（合着材・接着材）について　練和方法（紙練板・スパチュラの取り扱い）について　※時間があったら、グリセリンを用いて練和の練習
14・15回目	合着材について　練和実習（カルボキシレート・グラスアイオノマー）
16回目	仮封材について
17回目	仮封実習（ストッピング・デュラシール・水硬性仮封材・セメント系　仮封材について
18回目	共同動作（パステクニック）について　歯科器材の把持方法による手渡しの練習
19回目	保存修復①・防湿法　・歯間分離法　・診療姿勢（ミラーテクニックの確認）　・切削器具について（バーの着脱）　※器具を見て確認
20・21回目	歯内療法①　抜髄の流れについて　使用器材・薬品の名称　他
22・23回目	歯内療法②　抜髄の流れについて 根管治療～根管充填の流れ　器材の使用方法・名称　※線材の作り方
24・25回目	保存修復②　・光CR充填の流れ（III級窩洞）～実際にセパレーターを用いて充填実習
26・27回目	ラバーダム防湿法
28・29回目	ラバーダム防湿　※バキューム、3Wayの取り扱い（取り外しまで）
30・31回目	アルジネート印象材について　アルジネート印象材について練和（1・2杯）・印象採得実習（回転トレー）
32・33・34回目	アルジネート印象採得実習：全顎トレー　・術者：下顎→上顎印象採得（要　陰印）・補助者・練和・トレーへの盛り上げー受け渡し
35・36回目	アルジネート全顎印象採得　※補助者受け渡し含む
37・38回目	口腔内カメラについて（概論）　デジカメで位置づけなどを確認
39・40回目	口腔内カメラの取り扱いについて　※正面・側方（左右）・咬合面（上下）
41・42回目	定期試験勉強
43・44回目	チャート作成
45回目	チャート作成
準備学習　時間外学習	●予習・復習の実践 ●体調を整え、欠席をしないように心掛ける ●勉強の習慣化
評価方法	●授業態度 ●出席状況（66　/96以上）クリアで定期試験受験可 ●定期試験（60%以上）クリアで科目単位取得
受講生へのメッセージ	歯科衛生士の3大業務のひとつである【歯科診療補助】は、歯科衛生士にとって臨床における主要な業務です。ただアシスタントワークを行うのではなく、専門的な知識かあっての技術であり、歯科衛生士の専門性を理解するために必要な科目です。これからは、患者を中心とした医療の展開を歯科医師とともに担える歯科衛生士が求められ、そこではマネジメント能力を発揮することが期待されます。歯科衛生士のプロフェッショナリズムを高めてください

【使用教科書・教材・参考書】

教科書　医歯薬出版　歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論」「保存修復学・歯内療法学」「歯周治療学」「歯科補綴学」
プリント配布

2025年度 授業概要

学 科 ： 歯科衛生士科

科目名（英）	歯科診療補助論Ⅱ （ Theory of Dental Assist ）	必修選択	必修	年次	2	担当教員	市丸 悦子
						実務経験	○
		授業形態	講義・演習	総時間（単位）	60 4	開講区分	前期
コース						曜日・時限	

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

歯科治療における、診療の補助・受付業務などの機能を理解し、歯科衛生士としての心構えを身につける。
※診療内容ごとに項目を細分化し、実際の器材を用いて実習を行う。
※臨床科目の講義とリンクすることにより全体の流れも理解させる

※実務経験 歯科衛生士として20年以上、一般歯科医院にて勤務

【到達目標】

さまざまなライフステージにおける歯科医療に対応するために、専門的な歯科医療の補助に関する基礎的知識、技術および態度を習得する。

目標①歯科治療で用いられる主要歯科材料の種類、基本的性質および標準的な使用法を説明できる。

目標②歯科治療の手順を概説し、薬剤および器材の使用法を説明できる。

目標③歯科診療の準備と基本動作が実践できる。

授業計画・内容	
	【前期】
1,2回目	実習（ファントム・デンタルルーム）の流れについて　　共同動作について（アルジネート練和・バステクニック）復習
3,4回目	1年生印象採得に向けて（相互実習）
5,6回目	歯科用セメント（練和実習）　　仮封材の取り扱い（バステクニック含む）
7,8,9回目	1年生印象採得実習（術者 ・アシスタント－石膏注入）
10,11回目	バキュームテクニック（4ハンドテクニックの復習）
12回目	歯周パック（目的・適応症）と取り扱いについて
13回目	精密印象について（作業模型との関連）　　シリコーン印象材の取り扱いについて
14,15回目	プロビジョナルレストレーション作成（既成冠）
16回目	九大実習に向けて①（切削器具・バーの種類について）
17回目	九大実習に向けて②（CR充填処置および歯内治療）
18,19回目	バキュームテクニック（リピート）
20,21回目	寒天アルジネート印象採得実習　～バステクニック含む
22,23回目	九大実習に向けて患者誘導・バキュームテクニック OSCE試験
24回目	九大実習に向けて③（補綴装置について～装着時の準備物）
25回目	九大実習に向けて④（普通抜歯～難抜歯 術式と使用器具の確認）
26,27回目	プロビジョナルレストレーション作成（印象法）
28,29回目	スタディモデル台付け実習
30回目	補綴治療における器材準備について
準備学習時間外学習	●予習・復習の実践 ●体調を整え、欠席をしないように心掛ける ●勉強の習慣化
評価方法	●授業態度 ●出席状況（66．7%以上）クリアで定期試験受験可 ●定期試験（60%以上）クリアで科目単位取得
受講生へのメッセージ	歯科衛生士の3大業務のひとつである【歯科診療補助】は、歯科衛生士にとって臨床における主要な業務です。ただアシスタントワークを行うのではなく、専門的な知識があっての技術であり、歯科衛生士の専門性を理解するために必要な科目です。これからは、患者を中心とした医療の展開を歯科医師とともに担える歯科衛生士が求められ、そこではマネジメント能力を発揮することが期待されます。歯科衛生士のプロフェッショナリズムを高めてください。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：医歯薬出版 最新歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論Ⅱ保存修復学・歯内療法学」「歯周治療学」「歯科補綴学」「口腔外科」
プリント配布

2025年度　授業概要

学　科：　歯科衛生士科

科目名（英）	歯科保健指導論Ⅰ （ Guidance of Dental Health Ⅰ ）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	恰土　英果
						実務経験	○
		授業形態	講義・演習	総時間（単位）	60 4	開講区分	前期・後期
コース						曜日・時限	

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

口腔保健の意義の理解と他者への理解を深め、個人を対象としてその人の生活・行動をその人に適した歯科保健行動に変容させるための専門的な立場からの助言と援助ができるよう専門的知識・技術を習得する。

※実務経験　　歯科医師として15年以上一般歯科医院勤務にて臨床に携わる

【到達目標】

健康と疾病の概念を理解し、人びとの歯・口腔の健康を維持・増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術および態度を習得する。

目標①対象者（個人、集団）の情報を評価し、歯科衛生診断結果をもとに歯科衛生介入のためのプログラムを計画立案する一連の方法を説明する。

目標②口腔衛生管理を行うために必要な知識、技術および態度を習得する。

目標③各患者に合わせた口腔健康管理と指導を行うために、専門的知識、技術および態度を習得する。

授業計画・内容	
1・2回目	3年生実習媒体評価（幼稚園・保育園媒体発表会）
3・4回目	2年生による1年生へのTBI実習
5回目	主要三科とは？　歯科保健指導の概念
6回目	2章　歯科予防処置論・歯科保健指導論で学ぶこと
7回目	Ⅱ編 歯科予防処置・歯科保健指導の基礎知識　1章　口腔の基礎知識（口腔観察法実習に向けて）
8・9回目	Ⅲ編歯科予防処置・歯科保健指導各論　1章　歯科衛生過程の進め方　歯科衛生過程とは？2章　歯科衛生アセスメントのための情報収集と情報処理 口腔の器質的問題の把握　【口腔観察法実習】
10・11回目	[illegible] 上下3～3のみ綿棒にて染色を実施（初）・歯周病の指数 （1）歯肉炎の指数（PMA index） （2）歯肉炎及び歯周炎の指数→2年次衛生統計学にて…
12・13回目	Ⅲ編歯科予防処置・歯科保健指導各論　4章　歯科衛生介入のための歯科保健指導　口腔衛生に関わる指導 ブラッシング　歯ブラシ　種類と特徴について【歯ブラシの検討実習】
14・15回目	3）ブラッシングの方法（P 436～439）【ブラッシング法検討実習】(2) ・学校　推奨の歯ブラシを用いて、自分磨きを実践・染色（綿棒にて）→PCR記録（上下3～3）・ライト付きミラーの取り扱い方法について
16・17回目	【100%歯磨実習】 ・歯垢染色剤の取り扱い（綿球塗布法）→PCR記録（全顎）（染色剤の綿球の作成方法を習得する）・ユニット上での仕上げ磨き＆対面での仕上げ磨きを実践
18回目	その他の清掃方法【補助的清掃具の使用方法】デンタルフロス・歯間ブラシ／タフトブラシ　etc.
19・20回目	【ブラッシング法実践実習】リピート《業者》ライオンブラッシングセミナー
21・22回目	2年生による1年生へのOHI実習（2回目）
23回目	Ⅱ編3章　保健行動支援のための基礎知識　コミュニケーションスキル
24・25回目	Ⅲ編2章歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理 ①患者（対象者）からの情報収集　キュレット相互の前に実施 1 主観的情報の把握 2 医療面接（メディカルインタビュー）
26回目	口腔内診査（歯式の略号　他）について
27・28回目	【ブラッシング法実践実習】リピート《業者》ライオンブラッシングセミナー
29回目	Ⅳ編対象別の歯科衛生介入　1章ライフステージに対応した歯科衛生介入　①妊産婦期
30回目	②乳児期　一離乳指導は2年次にて
31回目	③幼児期　④学齢期
32回目	⑤思春期・青年期
33・34回目	う蝕活動性試験①
35回目	う蝕活動性試験②
36回目	う蝕活動性試験③
37回目	⑥成人期→禁煙指導は2年生で
準備学習　時間外学習	●予習・復習の実践 ●体調を整え、欠席をしないように心掛ける ●勉強の習慣化
評価方法	●授業態度 ●出席状況（66.7%以上）クリアで定期試験受験可 ●定期試験（60%以上）クリアで科目単位取得
受講生へのメッセージ	歯科衛生士の3大業務のひとつである歯科保健指導は、人が自らの健康を考え正しい生活習慣や態度へ行動できる行動（ヘルスプロモーション）を養う専門的な知識を指導するための知識や技術を習得する科目です。少子・高齢社会の到来により、個人個人の健康への意識も変化してきました。時代のニーズに合わせて専門家として正しい知識や技術を伝え、いつまでも健康で自分で食事ができるためには、歯や口の健康は不可欠な課題です。また、歯だけではなく全身の健康を考えるために、他の医療職との連携も必要です。そのためには科学的思考や分析、指導計画の立案できる能力が求められます。さらに、患者さんへ寄り添い、継続したサポートをすることが必要です。そのためには、患者を理解するための医療面接技術、コミュニケーション能力など必要とされる能力は多岐にわたります。実践的な授業を通して学んでいきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書　医歯薬出版　歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」
プリント配布

2025年　授業概要

学　科　：　歯科衛生士科

科目名（英）	生化学 (Biochemistry)	必修選択	必修	年次	1	担当教員	木村　三栄子
						実務経験	○
		授業形態	講義	総時間（単位）	15 / 1	開講区分	後期
コース						曜日・時限	火曜、4時限目

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

1年次前期に習得した化学の知識を生かし、生化学の授業に繋げて考えることができるように授業展開する。そして生化学を通して栄養指導のできる知識を習得することを目的とする。ｽﾗｲﾄﾞやプリントを使用し知識の整理をする。

※実務経験
1998.6～2001.8西日本医療福祉総合センター勤務
2001.9～2004.7老人保健施設シルバーケア玄海勤務
2004.8～2005.4老人保健施設サンドリーム田川勤務

【到達目標】

①栄養学および生化学を学ぶ目的を理解する
②栄養学および生化学を学ぶ意義を理解する

授業計画・内容	
1回目	生化学とは　細胞の内容物について理解する
2回目	細胞の構造と役割　細胞膜の構造と物質の輸送について理解する
3回目	生体内の水　細胞内器官の名称と働き、生体の水分含有量と体内移行について理解する
4回目	水の化学とは何か理解する
5回目	生体の主要な分子と働き　緩衝作用と緩衝溶液、たんぱく質の特徴と酵素反応について知識を深める
6回目	ホルモンについて知識を深める
7回目	生命活動と代謝　糖質・脂質・核酸・無機質、消化と吸収、糖質・脂質・たんぱく質の代謝について理解する
8回目	結合組織の生化学　たんぱく質の合成過程、血中糖濃度の調節機構、コラーゲンの合成過程・エラスチン、プロテオグリカンについて理解する
準備学習時間外学習	●予習・復習の実践 ●体調を整え、欠席をしないように心掛ける ●勉強の習慣化
評価方法	●授業態度 ●出席状況（66．7％以上）クリアで定期試験受験可 ●定期試験（60％以上）クリアで科目単位取得
受講生へのメッセージ	近年、栄養学は急速にその基礎を生化学に求めつつある。食物として摂取した栄養素を私たちはどのように消化・吸収しエネルギーを獲得し、必要な物質を合成するのかを理解するためには生化学の知識がどうしても必要である。さらに、歯科医学が健康科学の一領域として明確に認識された現在では、口腔を専門として扱う歯科衛生士であっても、ヒトという生命全体の形態や機能を理解することが求められている。先に化学・生化学を習得し、ついで生化学で得た知識を基盤にして栄養学を習得することが望ましい。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書・医歯薬出版　歯科衛生学シリーズ「栄養と代謝」
プリント配布

2025年度　授業概要

学　科　：　　歯科衛生士科

科目名（英）	口腔生化学 （ Oral Biochemistry ）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	木村　三栄子
						実務経験	○
		授業形態	講義	総時間（単位）	15	開講区分	後期
コース					1	曜日・時限	火曜、2、3時限目

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

1年次前期に習得した化学の知識を生かし、口腔生化学の授業に繋げて考えることができるように授業展開する。そして口腔生化学を通して栄養指導のできる知識を習得することを目的とする。スライドやプリントを使用し知識の整理をする。

※実務経験　1998.6～2001.8西日本医療福祉総合センター勤務　2001.9～2004.7老人保健施設シルバーケア玄海勤務　2004.8～2005.4老人保健施設サンドリーム田川勤務

【到達目標】

①栄養学および生化学を学ぶ目的を理解する
②栄養学および生化学を学ぶ意義を理解する

授業計画・内容	
1回目	「歯の組成」 歯の無機成分、有機物について理解する
2回目	「骨と歯の石灰化」 石灰化機構とは概説できる
3回目	「口腔組織とホルモン及びビタミン」 血清中のカルシウムとリン酸濃度のホルモンによる調節について理解する
4回目	「口腔組織とホルモン及びビタミン」 口腔組織に影響を与えるその他のホルモンやビタミンについて理解する
5回目	「唾液の生化学」について概説できる
6回目	「歯の表面にみられる付着物」 プラーク・ペリクル、歯石・キレート作用について理解する
7回目	「歯の脱灰と溶解」「免疫と炎症」 齲蝕発生の仕組み、体液性免疫と細胞性免疫、抗体・アレルギーについて理解する
8回目	まとめ及び定期試験
準備学習時間外学習	●予習・復習の実践 ●体調を整え、欠席をしないように心掛ける ●勉強の習慣化
評価方法	●授業態度 ●出席状況（66．7%以上）クリアで定期試験受験可 ●定期試験（60%以上）クリアで科目単位取得
受講生へのメッセージ	近年、栄養学は急速にその基礎を生化学に求めつつある。食物として摂取した栄養素を私たちはどのように消化・吸収しエネルギーを獲得し、必要な物質を合成するのかを理解するためには生化学の知識がどうしても必要である。さらに、歯科医学が健康科学の一領域として明確に認識された現在では、口腔を専門として扱う歯科衛生士であっても、ヒトという生命全体の形態や機能を理解することが求められている。先に化学・生化学を習得し、ついで生化学で得た知識を基盤にして栄養学を習得することが望ましい。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：医歯薬出版　歯科衛生学シリーズ「栄養と代謝」
プリント配布

2025年度　授業概要

学　科：　歯科衛生士科

科目名（英）	栄養指導 （ Nutrition Education ）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	木村　三栄子
						実務経験	○
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2	開講区分	後期
コース						曜日・時限	火曜、3時限目

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

栄養学の基礎知識と栄養指導および食生活指導の実技について習得する。
※授業媒体としては主にスライドを活用し治療の流れがわかるような工夫を行う。
※食事形態の体験実習を行う

※実務経験　1998.6～2001.8西日本医療福祉総合センター勤務　2001.9～2004.7老人保健施設シルバーケア玄海勤務　2004.8～2005.4老人保健施設サンドリーム田川勤務

【到達目標】

①栄養学および生化学を学ぶ目的を理解する
②栄養学および生化学を学ぶ意義を理解する

授業計画・内容	
1回目	「栄養学の定期」「人体構成成分と栄養」 疾病予防と食習慣、、栄養指導の必要性、人体構成成分比率と栄養素の種類
2回目	「光合成と呼吸」「エネルギー産生」 エネルギーの獲得・産生・代謝、アトウオーター係数の理解
3回目	「糖質の分類とその構造」「糖質の消化吸収」「糖質の代謝、概要」 糖質の分類・種類、構造を理解し消化吸収の理解へ結びつくよう解説
4回目	「食物繊維の働き」「甘味料の種類」 甘味料の種類とショ糖の甘さの比較
5回目	「たんぱく質の構造」「アミノ酸の構造」「代謝概要　たんぱく質の働き」「消化吸収」「たんぱく質の栄養価値」 たんぱく質の構造と主な働き、必須アミノ酸と非必須アミノ酸、卵価・人乳価・アミノ酸スコア、アミノ酸補足酵素、動物性たんぱく質比
6回目	「脂肪の分類」「中性脂肪の構造」「脂質の消化吸収と運搬」「脂肪酸の種類と食品」 中性脂肪・リン脂質・コレステロール、LDLコレステロールとHDLコレステロール、脂肪酸の種類と血清脂質への影響、脂溶性ビタミンと水溶性ビタミン
7回目	「ビタミンの分類」「ビタミンの働きと不足による症状」「ミネラルの種類と働き」「5大栄養素のまとめ」 ビタミンの働き　欠乏症　各ビタミンを多く含む食品、ミネラルの働き　欠乏症　消化吸収に影響する因子、復習(小テスト)
8回目	「食事摂取基準」 エネルギー所要量・基礎代謝・生活活動強度、運動によるエネルギー消費、ビタミン・ミネラルの食事摂取基準
9回目	「日本人の食生活とその問題点」 食事摂取状況、栄養素摂取状況、食生活指針
10回目	「食品の成分」「基礎食品群」 成分表の使い方、6つの基礎食品群
11回目	「食品と栄養素含有量」「食品とう蝕」「咀嚼の重要性」 ショ糖摂取量　咀嚼の有効性
12回目	「ライフステージ別　乳幼児　幼児期　高齢期」 離乳の進め方、間食の与え方、咀嚼・嚥下困難者の食事
13回目	「疾患とホルモン調整　①血糖調節　②血圧調節　③血中カルシウム濃度　糖尿病と血糖調節、高血圧と血圧調節、血中カルシウムの調節
14回目	「アルカリ性食品と酸性食品」 アルカリ性食品と酸性食品
15回目	まとめ及び定期試験
準備学習時間外学習	●予習・復習の実践 ●体調を整え、欠席をしないように心掛ける ●勉強の習慣化
評価方法	●授業態度 ●出席状況（66．7%以上）クリアで定期試験受験可 ●定期試験（60%以上）クリアで科目単位取得
受講生へのメッセージ	歯科衛生士は口腔という食物の入り口から健康を考える専門職であり、職務の1つとして栄養指導を行うことから栄養学を学ぶ。食物として摂取した栄養素を、私たちはどのように消化・吸収し、エネルギーを獲得し、必要な物質を合成するのかを生化学で学び、生化学で得た知識を基盤に、高度な内容の栄養学を効果的に習得する。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：医歯薬出版　歯科衛生学シリーズ「栄養と代謝」
プリント配布

2025年度　授業概要

学　科　：　歯科衛生士科

科目名（英）	審美歯科	必修選択	必修	年次	2	担当教員	中村　恭子
	(Aesthetic Dentistry)					実務経験	○
		授業形態	講義・演習	総時間（単位）	15	開講区分	前期
コース					1	曜日・時限	月曜、2、3時限目

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

審美歯科で行われる様々な治療についての知識、診療内容を理解する。

①審美歯科治療の種類・カウンセリングおよび治療前検査・治療の流れと診療補助について学ぶ

②実習『ホームホワイトニング実習』模型作成→カスタムトレー作成→薬品塗布→患者指導の一連の流れを実体験することで学習したことを体得する

※実務経験 平成14年～22年　歯科医師として九州大学病院勤務

【到達目標】

①審美歯科における歯科診療補助・歯科衛生士の役割について理解する

②『ホームホワイトニング実習』において実体験することで身に付ける

③審美歯科治療で重要な位置を占めるハイジニストワークについて理解を深める

授業計画・内容	
1回目 2回目	「審美歯科　ハイジニストワーク・ベーシック」 カウンセリング・コンサルテーションの基本、および「審美歯科　ハイジニストワーク・アドバンス」審美性をはかる基準、ホワイトニング成功の鍵、について理解する。
3回目 4回目	「カスタムトレー作製のための模型作製実習」 全顎印象採得→硬石膏注入→トリミング、※各自、自分の模型を患者の模型と見立てて作製する
5回目 6回目	「ホワイトニング」 ホワイトニングの基礎知識、および基本臨床術式を理解する。
7回目 8回目	「ホームホワイトニング　カスタムトレー作製実習」 ウルトラデントによる業者実習 カスタムトレー作製→薬剤の体験→患者指導
9回目 10回目	「症例から学ぶ審美性を維持向上させるハイジニストワーク」 審美性を維持するためのブラッシング指導、「目的」としてのホワイトニングから「手段」としてのホワイトニング、健康で美しい口腔を実現するためのコミュニケーション、メンテメンス時のポイントについて理解する
準備学習 時間外学習	●予習・復習の実践 ●体調を整え、欠席をしないように心掛ける ●勉強の習慣化
評価方法	●授業態度 ●出席状況（66．7％以上）クリアで定期試験受験可 ●レポート評価（60％以上）クリアで科目単位取得
受講生へのメッセージ	【審美歯科】では審美歯科治療の効果を最大限に引き出し、それを維持するために必要な知識と技術について勉強します。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：医歯薬出版　デンタルハイジーン別冊　歯科衛生士のための審美歯科入門
教科書：医歯薬出版　歯科衛生士　ベーシック　スタンダード　ホワイトニング

2025年度　授業概要

学　科　：　歯科衛生士科

科目名（英）	インプラントアシスト （ Inplant Assist ）	必修選択	必修	年次	2	担当教員	古谷野　潔
						実務経験	○
コース		授業形態	講義・演習	総時間（単位）	15 1	開講区分	前期
						曜日・時限	木曜、1時限目

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

歯科領域における欠損補綴のインプラントについて知識と技術を理解し、外科的処置を行う歯科診療補助の知識を修得する。

※実務経験 1997.4～1998.2　歯科医師。九州大学歯学部附属病院長・九州大学病院副院長として臨床に携わる。

【到達目標】

インプラントについて知識と技術を理解し、外科的処置を行う歯科診療補助の知識を修得する。

インプラント治療におけるメインテナンスの重要性を説明できる。

授業計画・内容	
1回目 2回目	【インプラントの基礎知識】「インプラントの基本構造」 基本構造、手術方法 「インプラントの天然歯の共通点と相違点」周囲組織の構造 「インプラントと骨の関係」オッセオインテグレーション、オッセオインテグレーション確率の判断、骨の分類 「インプラント周囲疾患」インプラント周囲粘膜炎、インプラント周囲炎、インプラント撤去になる場合 【インプラントのためのコンサルテーション】「治療までの流れ」「患者へのコンサルテーション」 コンサルテーションとは、インプラントにおけるコンサルテーション、治療希望のタイミング
3回目 4回目	「全身・口腔状態についての情報収集」「歯科医師による診断と治療計画の立案」「インフォームドコンセント」適否の診断、治療計画に必要な資料、手術法の選択、患者への説明、提供すべき情報、同意書の作製
5回目 6回目	【インプラント手術にあたりDHがおさえておくべきこと】「術前患者への対応」ホームケアについて、食事と生活に関する指導、ディプライドメントを行う、手術直前の患者対応「手術室の準備」手術室の消毒と準備、器具の準備 「手洗い・グローブ・術衣について」手洗い、術衣の準備、グローブの準備、手術後の脱衣 「手術について」手術中の補助者の役割、術式、インプラント補綴 「手術後の患者への対応」術直後、抜糸までの口腔衛生指導、食事指導、、生活上の注意事項
7回目 8回目	【インプラントのメンテナンス】「メンテナンスにおけるリコール」リコールの重要性と間隔、リコール時の施術の流れ 「メンテナンス時の感染予防」「リコール時の要観察・確認事項」患者自身の違和感、患者自身の違和感、動揺度、プロービング、エックス線写真、残存歯の評価、歯石沈着・プラーク付着の状態の確認、義歯の管理 「メンテナンスにおけるプラークコントロールと患者指導」ホームケアの重要性、ブラッシングとホームケア指導 「メンテナンス時のディプライドメント」プラークと歯石の分類、超音波スケーラーによるスケーリング、ハンドスケーラーによるスケーリング
準備学習 時間外学習	●予習・復習の実践 ●体調を整え、欠席をしないように心掛ける ●勉強の習慣化
評価方法	●授業態度 ●出席状況（66．7%以上）クリアで定期試験受験可 ●定期試験（60%以上）クリアで科目単位取得
受講生へのメッセージ	歯科衛生士はインプラントのメインテナンスにおいて、大きな役割を担っています。インプラントの長期成功のためには、歯科衛生士による口腔内環境のコントロールが欠かせません。歯科衛生士として必要なインプラントの知識と技術を修得することが不可欠です。患者さんのより良い人生に貢献できる歯科衛生士として活躍してください。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：医歯薬出版　歯科衛生士のためのインプラントメインテナンス

2025年度　授業概要

学　科　：　歯科衛生士科

科目名（英）	メイク （ Make-Up ）	必修選択	選択	年次	1	担当教員	山崎　裕美
						実務経験	○
		授業形態	演習	総時間（単位）	15 1	開講区分	後期
コース						曜日・時限	月曜、4時限目

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

医療従事者の身だしなみとしてのメイクを習得する。

※実務経験：美容クリエーター・ヘアメイクアップアーティストとして25年以上のキャリアを積み、ブライダル、ビューティーショー、撮影、講師業のほかに、内面・外面・精神面を整える三面美容を主としたサロンを運営するなど幅広く活躍している。また、メイクアップ技術検定協会の認定講師やメイクアドバイザー、コスメコンシェルジュインストラクター、美容整体、リンパケア、腸セラピー、メンタル美容セラピー、美容師免許などの資格も有する。

【到達目標】

好印象を与え、清潔感のあるヘアメイクを知り、現場かつ自分に合うナチュラルなヘアメイクが自分で出来るようになる。

授業計画・内容	
1回目	好印象を与える現場に合うヘアメイクとは何かを知る 現在の自分のヘアメイクを知る（写真を撮っておく） 自分の顔のバランスを知る（ゴールデンプロポーションを知る） 自分の顔のバランスの整え方・方法を知る
2回目	「ベースメイク」（コントロールカラー・ファンデーション・コンシーラーなど） 顔型の補正、肌トラブルのカバーの仕方を覚える
3回目	「アイブロウ」 眉のイメージ、プロポーション、描き方を覚える
4回目	「アイメイク」（アイシャドウ・アイライン・ビューラー・マスカラ） 目幅（タテ・ヨコ）、目と目の間隔のバランスを整える方法を知る イメージに合わせた色選びを知る
5回目	「チーク・リップ」 チークの位置、形を覚える リップのプロポーションを覚える 顔型やイメージに合わせた入れ方や色選びを知る
6回目	「ヘア」 清潔感のあるヘアスタイル、まとめ髪の仕方を覚える
7回目	「ヘアとメイク」 トータルで仕上げる（自分に似合うように印象よく仕上げる）
8回目	「試験」今まで修得した知識と技術を活用し自分に合った印象的でナチュラルなヘアとメイクを仕上げる
準備学習 時間外学習	●予習・復習の実践 ●体調を整え、欠席をしないように心掛ける ●勉強の習慣化
評価方法	●授業態度 ●出席状況（66．7％以上）クリアで定期試験受験可 ●定期試験（60％以上）クリアで科目単位取得
受講生へのメッセージ	社会人にとってメイクをすることはマナーでもあります。そして医療従事者となるみなさんは、患者様に安心感や清潔感を感じさせる装いでなければなりません。医療従事者としての身だしなみとはどのようなものか理解し、患者様に不快感を与えないようなヘアー、メイクを身につけましょう。「歯科衛生士」としてだけでなく、「女性」として輝いてほしいと思います。授業回数が少ないので欠席のないよう体調管理に気を付けてください。

【使用教科書・教材・参考書】

2025年度　授業概要

学　科　：　歯科衛生士科

科目名（英）	薬理学・歯科薬理学 （ Pharmacology ）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	兼松　隆
						実務経験	○
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
コース						曜日・時限	火曜　4時限目

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

医学の基本的知識を生かし薬物の効力発現を理論的に理解する。教本に基づきｽﾗｲﾄﾞやプリントを作成、

※実務経験 歯科医院に10年間勤務

【到達目標】

【疾病の回復を促進する薬】
①病因療法と対症療法について理解する
②薬物の取り扱いについて説明できる
③薬物の作用機序・相互作用・薬物動態・投与方法・副作用について理解する
【歯科疾患の回復を促進する薬】
①歯科治療に用いる薬物について説明できる
②歯科治療で来院する患者が服薬している薬物について説明できる
③服薬指導を理解する

授業計画・内容	
1回目	総論1章　薬物の作用について理解する
2回目	総論1章　薬物の作用について理解する　総論2章　薬物動態について理解する
3回目	総論2章　薬物動態について理解する　各論12章　炎症と薬物について理解する
4回目	各論12章　炎症と薬物について理解する　各論14章　局所麻酔薬について理解する
5回目	各論14章　局所麻酔薬について理解する
6回目	各論2章　末梢神経系に作用する薬物について理解する　各論4章　痛みと薬物について理解する
7回目	各論5章　腎臓に作用する薬物について理解する　各論6章　呼吸器系に作用する薬物について理解する　各論7章　消化器系に作用する薬物について理解する
8回目	各論3章　中枢神経系について理解する　各論3章　中枢神経系について理解する
9回目	各論1章　ビタミンとホルモンについて理解する　各論11章　代謝性疾患治療薬について理解する
10回目	総論3章　薬物の適用方法の種類と特徴について理解する
11回目	総論4章　薬物の作用に影響を与える要因について理解する　総論5章　薬物の副作用，有害作用について理解する
12回目	総論6章　医薬品を適用する際の注意について理解する
13回目	総論7章　薬物の取り扱いについて理解する　総論8章　薬物と法律・薬物と医薬品について理解する
14回目	各論15章　抗感染症薬について理解する　各論16章　消毒に使用する薬物について理解する　各論16章　血液に作用する薬物について理解する
15回目	各論10章　悪性腫瘍と薬物について理解する　各論20章　顎口腔粘膜疾患と薬物について理解する　各論9章　免疫と薬物について理解する
16回目	定期試験と解説
準備学習時間外学習	●予習・復習の実践 ●体調を整え、欠席をしないように心掛ける ●勉強の習慣化
評価方法	●授業態度 ●出席状況（66．7%以上）クリアで定期試験受験可 ●定期試験（60%以上）クリアで科目単位取得
受講生へのメッセージ	薬理学は薬物を生体に与えた場合に生体が現す反応を研究する科学です。また、疾病の予防・治療・診断における合理的な薬物療法の基盤となる研究を行い、知識を与えるのが薬理学です。薬理学の背景には解剖学、生理学、生化学、微生物学、病理学などがあり、これらの科目を包括した総合的な専門基礎科目です。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：医歯薬出版　歯科衛生学シリーズ「薬理学」
プリント配布

2025年度　授業概要

学　科　：　歯科衛生士科

科目名（英）	口腔衛生学Ⅰ （ Oral Hygiena Ⅰ ）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	中本　由希
						実務経験	○
		授業形態	講義	総時間（単位）	60 4	開講区分	前期・後期
コース						曜日・時限	火曜　3時限目

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

歯と口腔の疾患異常の予防および保健指導の知識を習得する。教本に基づき授業を進める。スライドやプリントを活用することで知識の定着をはかる。

※実務経験　2005.4～2010.3九州大学病院小児歯科　2010.4～2013.4医療法人元気が湧くKid's歯科とび
2013.10～2015.3はしもと小児歯科・矯正歯科　2015.4～たむら歯科医院

【到達目標】

前期：歯・口腔の健康に関わる社会の仕組みを理解し、歯科疾患の予防能力を高める態度を養うために、歯・口腔の健康と予防に関する基本的知識を習得する。
後期：生活と健康に関わる社会の仕組みを理解し、地域社会における保健対策の基本的な考え方を学び、地域集団に対する疾病の予防能力を高める態度を養うために、健康に関わる地域の役割に関する基本的知識を習得する。

授業計画・内容	
	【前期】
1・2回目	総論　歯・口腔の健康と予防、歯・口腔の健康、歯・口腔の付着物・新着物について概説できる
3・4回目	口腔清掃　口腔清掃の意義、口腔清掃法について理解する
5・6回目	口腔清掃　人工的清掃法の分類と用具、不適切な口腔清掃による為害作用、歯磨剤と洗口剤について理解する
7・8回目	歯科疾患の疫学　う蝕の疫学、歯周疾患の疫学、その他の疫学について理解する
9・10回目	う蝕の予防　う蝕発生のメカニズム、う蝕の発生要因、う蝕活動性、う蝕の予防法について概説できる
11・12回目	フッ化物によるう蝕予防　我が国のフッ化物応用、フッ化部の一般的性状と用語、人間生態系におけるフッ化物、フッ化物摂取量とその基準について理解する
13・14回目	フッ化物によるう蝕予防　フッ素の代謝、フッ化物の毒性、フッ化物応用によるう蝕予防、フッ化物のう蝕予防メカニズム、ライフステージに応じたフッ化物応用法について理解し概説できる
15回目	まとめおよび試験対策
	【後期】
1回目	歯周疾患の予防　歯周疾患の症状と分類、歯周疾患の発生機序、歯周疾患の全身に与える影響、歯周疾患の予防手段と処置について理解する
2回目	その他の疾患・異常の予防　口内炎、口腔癌、不正咬合、顎関節症、歯の形成不全、口臭症、口腔乾燥症について理解する
3・4回目	ライフステージごとの口腔保健管理　口腔保健管理の目標、母子口腔保健、小児期の口腔保健、成人期・老年期の口腔保健について理解する
5回目	地域保健・公衆衛生　地域社会と地域保健の概念、地域保健の組織、地域保健の新たな概念、地域保健活動の進め方、健康づくり対策と地域歯科保健について理解する
6回目	「母子保健」母子保健の目的、母子保健、小児保健、歯・口腔について、母子保健の現状と今後について理解する
7回目	学校保健　学校保健の意義および概念、学校保健の活動と組織、学校歯科保健について理解する
8回目	成人保健　成人保健の意義と特徴、成人保健活動の現状、成人保健対策、成人期の歯科保健について理解する
9・10回目	産業保健　産業保健の概念、職業性疾病、産業保健管理、産業保健活動について理解する
11・12回目	老人（高齢者）保健　老人（高齢者）保健の意義、老人（高齢者）保健のための行政組織と関係する法律について理解する
13回目	精神保健　精神保健とは、精神衛生から精神保健へ、我が国の精神保健のあゆみ、精神保健・医療・福祉、精神障害者の歯科保健について理解する
14回目	国際保健　発展途上国における健康問題、国際化に伴う我が国の保健医療問題、国際協力・口腔保健の現状、口腔保健戦略と目標について理解する
15回目	まとめおよび定期試験対策
準備学習時間外学習	●予習・復習の実践 ●体調を整え、欠席をしないように心掛ける ●勉強の習慣化
評価方法	●授業態度 ●出席状況（66.7%以上）クリアで定期試験受験可 ●定期試験（60%以上）クリアで科目単位取得
受講生へのメッセージ	口腔衛生学は社会歯科学系に属する学問として位置づけられています。専門基礎分野にあり「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み」の一部を学びます。健康を左右する環境について理解し、次いで個人を対象とした口腔の健康と予防について理解する。そして、集団を対象とする地域保健活動の在り方と、他職種と歯科衛生士と歯科衛生士との関わりについての理解を深めて欲しい。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：医歯薬出版　歯科衛生学シリーズ「保健生態学」
プリント配布

2025年度　授業概要

学　科　：　歯科衛生士科

科目名（英）	歯科保存学（修復学・歯内療法学・歯周治療学）（ Conservative Dentistry ）	必修選択	必修	年次	1・2	担当教員	前田英史　/和田尚久
						実務経験	○
		授業形態	講義・演習	総時間（単位）	60 4	開講区分	（1年）後期・（2年）前期
コース						曜日・時限	水・金曜　1時限目

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

歯科保存学では【保存修復】【歯内療法】【歯周病学】の3分野に分かれている。
【保存修復】では歯科疾患の基礎的知識、保存修復・歯内療法の概要について知識を習得する。
【歯内療法】では歯周疾患、基礎と治療法の知識を習得する。
【歯周病学】では歯周疾患の基礎知識として歯周組織の解剖や機能、歯周疾患の分類や病因、全身疾患との関連などについて臨床写真やイラストを用いて学習する。
授業媒体としては主にスライドを活用し治療の流れがわかるような工夫を行う。
2年次7月ごろに大学病院での臨床実習に臨む。講義で学習した内容を臨床実習で実体験することで学習効果を上げる。
臨床実習終了後、残りの講義を実施し、総まとめを行う。

※実務経験　前田英史：1995.4～九州大学病院勤務
和田尚久：2010.4～九州大学病院勤務

【到達目標】

【保存修復】保存修復の概要・う蝕の治療方法（直接法修復・間接法修復）・保存修復における歯科衛生士の役割について学ぶ
【歯内療法】歯内療法の概要・歯髄保存療法・歯髄の除去療法・根管治療根管充填・外科的歯内療法・歯の外傷・歯内療法における歯科衛生士の役割
【歯周病学】歯周疾患の基礎知識、歯周治療の臨床と歯科衛生士業務、歯周治療に必要な診査、診断、治療法について具体的に学習し、臨床実習につなげる
歯科保存学は歯科診療補助・歯科予防処置とリンクさせて学習する必要があり、臨床実習において知識の定着が図れる

授業計画・内容	
【保存修復学】	
1回目	Ⅰ編総論「1章 歯の保存療法の種類」 歯の保存療法と歯科保存学、対象となる疾患
2回目	Ⅰ編総論「2章　歯および歯周組織の診査」
3回目	Ⅱ編保存修復学「1章　保存修復学の概要」 硬組織疾患の種類と病態
4回目	Ⅱ編保存修復学「1章　保存修復学の概要」 う蝕の病態
5回目	Ⅱ編保存修復学「1章　保存修復学の概要」 保存修復法の種類・準備・切削
6回目	Ⅱ編保存修復学「2章　直接修復」 コンポジットレジン修復
7回目	Ⅱ編保存修復学「2章　直接修復」 セメント修復
8回目	Ⅱ編保存修復学「4章　間接修復法」 インレー・アンレー修復
9回目	Ⅱ編保存修復学「4章　間接修復法」 ベニア修復、合着材および接着材
10回目	Ⅱ編保存修復学「5章 補修修復、3章 歯の漂白（ホワイトニング）、6章 保存修復における歯科衛生士の役割」
11回目	まとめおよび定期試験
【歯内療法学】	
1回目	Ⅲ編　歯内療法学「1章　歯内療法学の概要」
2回目	Ⅲ編　歯内療法学「2章　歯髄保存療法」
3回目	Ⅲ編　歯内療法学「3章　歯髄の除去療法」
4回目	Ⅲ編　歯内療法学「4章　根管治療・根管充填」 根管治療の概念・器材
5回目	Ⅲ編　歯内療法学「4章　根管治療・根管充填」 根管治療器材と術式、根管長測定
6回目	Ⅲ編　歯内療法学「4章　根管治療・根管充填」 根管治療の拡大形成・洗浄・消毒・仮封
7回目	Ⅲ編　歯内療法学「4章　根管治療・根管充填」 根管充填の時期と器材
8回目	Ⅲ編　歯内療法学「4章　根管治療・根管充填」 根管治療術式・根未完成歯の根管充填
9回目	Ⅲ編　歯内療法学「5章 外科的歯内療法」
10回目	Ⅲ編　歯内療法学「6章 歯の外傷、7章 歯内療法における安全対策、8章 歯内療法における歯科衛生の役割」
11回目	まとめおよび定期試験
【歯周治療学】	
1回目	歯周病学「1編 1章　歯周治療とは」 歯周疾患の有病状況、歯周治療の目的と意義
2回目	歯周病学「1編 2章　正常な歯周組織の構造と機能」 歯周組織の構造と機能
3回目	歯周病学「1編 3章　歯周病の原因と分類」 歯肉炎と歯周炎の違い、歯周病の原因
4回目	歯周病学「2編 1章　歯周治療の進め方」 歯周治療の基本的考え方、歯周治療の進め方
5回目	歯周病学「2編 1章　歯周治療の進め方」 歯周基本治療、歯周外科治療および口腔機能回復治療の概略
6回目	歯周病学「2編 2章　歯周病の検査」 歯周組織の破壊程度の診査方法
7回目	歯周病学「2編 3章　歯周基本治療」 歯周基本治療の目的、内容および方法
8回目	歯周病学「2編 4章　歯周外科治療」 歯周外科治療の目的、分類、適応および使用器具
9回目	歯周病学「2編 5章　歯周治療としての口腔機能回復治療」 歯周治療における咬合調整、固定法および補綴治療
10回目	歯周病学「2編 6章　メインテナンス」 メインテナンスの重要性と意義
11回目	歯周病学「3編 1章　歯周治療における歯科衛生士の役割」 検査、歯周基本治療、歯周外科治療およびメンテナンスにおける歯科衛生士の役割
12回目	歯周病学　まとめ
準備学習　時間外学習	●予習・復習の実践 ●体調を整え、欠席をしないように心掛ける ●勉強の習慣化
評価方法	●授業態度 ●出席状況（66　7%以上）クリアで定期試験受験可 ●定期試験（60%以上）クリアで科目単位取得
受講生へのメッセージ	【歯科保存学】は【保存修復】【歯内治療】【歯周治療】の3本立てで勉強していく。最新の科学理論に基づいた対応、最新の機器、材料、薬剤の特徴や使用方法を学ぶ。【保存修復】では疾患の予防と進行抑制を念頭に置き、QOLを高め、体だけでなく心の健康に貢献する審美性などにも十分考慮した予防・治療・メンテナンスが求められる。【歯内療法】では検査・診断・術式に大きな変革がみられ、マイクロスコープや歯科用CTなどの導入により診断に苦慮したような症例でも原因をみつけ治療ができるようになった。【歯周病学】に関する考え方は近年進化・発展し、歯周病と全身疾患の関わりもふまえつつ、患者の指導・管理にあたる必要がある。歯科衛生士に求められる知識・技術は年々増えている。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書　医歯薬出版　歯科衛生学シリーズ「保存修復学・歯内療法学」「歯周病学」

2025年度　授業概要

学　科　：　歯科衛生士科

科目名（英）	救急蘇生、偶発事故予防・対策 （ First aid for Revival/Prevention of Accident ）	必修選択	必修	年次	2	担当教員	上加世田/中村/三上/服部/宗村
						実務経験	○
		授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
コース						曜日・時限	月曜　3時限目

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

救急蘇生の手順を学び、歯科医院などの医療現場で起こりうる偶発事故についての予防と対策について学ぶ。※救急蘇生のマネキンを使った実習を取り入れる

※実務経験
上加世田　泰久：2015.4～九州大学病院勤務
宗村　龍祐：2016.4～九州大学病院勤務
中村　瑞樹：2019.4～九州大学病院勤務
三上　友理恵：2021.4～九州大学病院勤務
服部　多市：2020.4～九州大学病院勤務

【到達目標】

①歯科開業医における患者の全身管理を学ぶ
②歯科患者の内科的疾患の悪化、偶発症の誘因・原因を知る
③歯科医療従事者として起こりうるいかなる緊急事態にも対処できる知識を学ぶ
④医療事故・法的責任について学ぶ

授業計画・内容	
1回目	救急処置の重要性
2回目	救急蘇生法1
3回目	救急蘇生法2
4回目	BLS1(確認と救急の出動要請)
5回目	BLS2(成人の心肺蘇生法1)
6回目	BLS3(成人の心肺蘇生法2)
7回目	BLS4(成人の心肺蘇生法3)
8回目	BLS5(AEDの使用方法)
9回目	BLS6(小児・乳児の心肺蘇生法)
10回目	BLS7(窒息の解除)
11回目	歯科医院における救急処置1(局所麻酔薬中毒)
12回目	歯科医院における救急処置2(アドレナリン過剰反応)
13回目	歯科医院における救急処置3(心筋梗塞・狭心症・脳卒中と意識障害)
14回目	歯科医院における救急処置4(異物の食道への誤嚥と気道への誤飲・その他の外傷)
15回目	医療事故と法的責任(法律上の責任・医療事故の対処・偶発症が起こってしまったら)
準備学習時間外学習	●予習・復習の実践 ●体調を整え、欠席をしないように心掛ける ●勉強の習慣化
評価方法	●授業態度 ●出席状況(66.7%以上)クリアで定期試験受験可 ●定期試験(60%以上)クリアで科目単位取得
受講生へのメッセージ	歯科治療は生体に対して肉体的にも精神的にも大きなストレスとなり、歯科患者の内科的疾患の急激な悪化、あるいは偶発症の誘因、原因となりうることは十分に考えられる。全身的緊急症とその処置法、とくに医事紛争の増加傾向にある現在、医療事故と法的責任について学び、起こりうるいかなる緊急事態にも対応できるよう、日頃からの研鑽が大切である。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：医歯薬出版　AHAガイドライン2020に沿ったBLSの理解のために

2025年度　授業概要

学　科　：　歯科衛生士科

科目名（英）	口腔ケア・歯科内科学 (Dentistry for Medically Compromised Patients)	必修選択	必修	年次	2	担当教員	柏崎　晴彦
						実務経験	○
		授業形態	講義	総時間（単位）	15 1	開講区分	後期
コース						曜日・時限	木曜3限

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

超高齢社会の進展に伴い，疾病構造に変化が見られ，歯科診療を受ける患者の多くが高齢者・有病者となってきている。このような背景をもとに，全身疾患の概要・症状・治療法等，基礎的医学知識と歯科疾患の関連を学び，歯科衛生士として必要な全身疾患の知識を習得する。

※実務経験 2002.7～2014.2北海道大学勤務　2014.3～2016.10北海道大学病院勤務　2016.11～九州大学病院勤務

【到達目標】

全身疾患の概要・症状・治療法等，基礎的医学知識と歯科疾患の関連を学び，歯科衛生士として必要な全身疾患の知識を習得する。
＜具体的な目標＞
目標①バイタルサイン，全身の症候について説明できる。
目標②薬物による有害反応への歯科治療上必要な対応や留意点について説明できる。
目標③高齢者・妊産婦・障害者・要介護者の治療の基礎について説明できる。
目標④全身管理に留意すべき疾患と歯科治療上必要な対応や留意点について説明できる。
目標⑤周術期等口腔機能管理および地域包括ケアシステムについて説明できる。

口腔ケアの重要性を理解し、口腔衛生管理を行うために必要な知識、技術および態度を習得する。

授業計画・内容	
1回目	第1章　患者の診察①バイタルサイン，全身の症候について説明できる。
2回目	第1章　患者の診察②バイタルサイン，全身の症候について説明できる。
3回目	第1章　患者の診察③薬物および放射線治療の口腔内併発症について説明できる。
4回目	「第2章　有病者管理の基本　高齢者・妊産婦・障害者・要介護者の治療の基礎について説明できる。
5回目	第3章　患者管理の各論①全身管理に留意すべき疾患と歯科治療上必要な対応や留意点（特に循環器疾患，脳血管疾患）について説明できる。
6回目	第3章　患者管理の各論②全身管理に留意すべき疾患と歯科治療上必要な対応や留意点（特に神経筋疾患，呼吸器疾患，代謝性疾患）について説明できる。
7回目	第3章　患者管理の各論③薬物による有害反応への歯科治療上必要な対応や留意点について説明できる。
8回目	第4章　周術期等口腔機能管理／第5章　地域包括ケアシステムについて説明できる。
準備学習時間外学習	●予習・復習の実践 ●体調を整え、欠席をしないように心掛ける ●勉強の習慣化
評価方法	●授業態度 ●出席状況（66．7%以上）クリアで定期試験受験可 ●定期試験（60%以上）クリアで科目単位取得
受講生へのメッセージ	歯科医院に来る患者の約半数は高齢者で，70歳以上の高齢者は一人平均7つ以上病名があるという時代です。全身疾患の概要・症状等を知ることは歯科衛生士にとって必要不可欠なのです。口腔内に気を配ってあげる必要が出てきます。有病者や高齢者の口腔内の問題や口腔ケアのポイントを知ることは歯科衛生士にとって必要不可欠です。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：永末書店「有病者歯科学」

2025年度　授業概要

学　科　：　　歯科衛生士科

科目名（英）	医療倫理 Medical Ethics	必修選択	必修	年次	1	担当教員	古賀寿々子
						実務経験	○
		授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
コース						曜日・時限	木曜　3時限目

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

医の倫理を学ぶと共に職業人としての心構えやインフォームドコンセントに基づいた患者対応などを習得する
インフォームドコンセントや生活の質（QOL）について理解する
歯科衛生士に求められる職業人としての心構えを身につける
医療現場で必要となるコミュニケーション技術や行動科学を学ぶ
受付の場面での対応など演習を通して実践してみる

※実務経験 2022 4～看護師としてこども未来局 子育て支援部指導監査課勤務

【到達目標】

①医療倫理とはなにかについて簡潔に述べることができる
②医療従事者の職業倫理に関する規範について概説できる
③倫理的要求としてのインフォームドコンセントについて概説できる
④生活行動と保健行動、QOLについて説明できる
⑤歯科医療におけるQOLの向上について説明できる
⑥歯科医療従事者に必要とされること（個人情報の取り扱い等）を理解する

授業計画・内容	
1回目	医療倫理を学ぶ必要性を理解できる　伝統的な医の倫理から新しい医の倫理の変遷が説明できる
2回目	医療従事者の基本的義務について理解できる　患者中心の医療について説明できる
3回目	歯科医療に関する権利と義務及び歯科衛生士の社会的使命について理解できる
4回目	医の倫理に関する規範及び国際規範について理解できる
5回目	バイオエシックス(生命倫理学)とは何か理解できる
6回目	バイオエシックスにかかわる問題について説明できる
7回目	インフォームド・コンセントとは何か説明できる　インフォームド・コンセントの実際について理解できる
8回目	インフォームド・コンセントと患者中心の医療について理解できる
9回目	医療現場における人の行動について理解できる
10回目	患者の行動について理解できる　歯科医療従事者の行動について説明できる
11回目	研究における医療倫理について理解できる
12回目	個人情報の取り扱いついて説明できる　臨床実習での身だしなみついて説明できる
13回目	患者理解のためのコミュニケーションについて説明できる　自己理解の重要性について理解できる　守秘義務について理解できる
14回目	歯科保健指導の場面での対応が説明できる　歯科診療の場面での対応が説明できる　受付の場面での対応が説明できる
15回目	職場での人間関係について理解できる　話を聴く態度を理解し実践できる
準備学習 時間外学習	●予習・復習を必ず実践し、習慣化する ●体調を整え、欠席をしないように心掛ける
評価方法	出席状況：2/3以上の出席で定期試験受験資格を取得できる。 定期試験：筆記試験（60%以上）で評価する。
受講生へのメッセージ	歯科診療所では患者との信頼関係に基づく医療サービスを提供できるようにインフォームドコンセントや生活の質（QOL）について理解し、それを説明し実践できることが歯科衛生士に求められます。また、患者との人間関係のみでなく、歯科医師や同僚たちとも常に円滑な連携を保つことができる能力も必要です。この科目を通して医療従事者としての基本的な姿勢を身に付けましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

医歯薬出版　歯科衛生学シリーズ「歯科医療倫理学」　＊別途に資料プリントを配布

2025年度　授業概要

学　科　：　　歯科衛生士科

科目名（英）	地域保健活動 （ Activity of Regional Heaith ）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	古賀　寿々子
						実務経験	
		授業形態	講義	総時間（単位）	15	開講区分	後期
コース					1	曜日・時限	月曜、3時限目

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

地域住民の健康の保持及び増進に寄与するための「地域保健対策の推進に関する基本方針、保健所の設置その他地域保健対策の推進に関し基本となる事項」の基礎的知識を習得させ、地域歯科保健指導の資とする。

※実務経験 2022.4～看護師としてこども未来局 子育て支援部指導監査課勤務

【到達目標】

歯科保健活動に必要な地域保健活動の準拠となる「地域保健法及びその活動」の概要を習得する
地域保健活動の全体像を知り、地域保健活動に寄与するための歯科保健化y指導の役割を理解する

授業計画・内容	
1回目	健康にかかわる地域の役割（地域保健法、地域保健活動の概要）について理解する
2回目	地域保健における重要な概念と歯科保健の取り組みの変遷について理解する
3回目	公衆衛生と歯科保健活動（母子を対象とした保健活動）について理解する
4回目	公衆衛生と歯科保健活動（児童・生徒を対象とした保健活動）
5回目	公衆衛生と歯科保健活動（成人を対象とした保健活動）
6回目	公衆衛生と歯科保健活動（高齢者を対象とした保健活動）
7回目	公衆衛生と歯科保健活動（疾病・障がいを持つ方を対象とした保健活動）
8回目	公衆衛生と歯科保健活動（世界での保健活動）・まとめ
9回目	定期試験対策
準備学習時間外学習	●予習・復習の実践 ●体調を整え、欠席をしないように心掛ける ●勉強の習慣化
評価方法	●授業態度 ●出席状況（66．7％以上）クリアで定期試験受験可 ●定期試験（60％以上）クリアで科目単位取得
受講生へのメッセージ	【地域保健活動】は社会医学系に属する学問として位置づけられています。専門基礎分野にあり「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み」の一部を学びます。健康を左右する環境について理解し、次いで個人を対象とした口腔の健康と予防について理解する。そして、集団を対象とする地域保健活動の在り方と、他職種と歯科衛生士と歯科衛生士との関わりについての理解を深めて欲しい。災害時の歯科保健医療に関する概要を学び、被災地における歯科衛生士の役割や必要な心構えを理解したうえで、適切な支援活動についても勉強します。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：医歯薬出版　歯科衛生学シリーズ「保健生態学」「歯科予防処置論・歯科保健指導論」

特になし

2025年度　授業概要

学　科：　歯科衛生士科

科目名（英）	生物 （ Biology ）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	今福　千明
						実務経験	
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
コース						曜日・時限	月曜　3時限目

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

生物学には専門基礎科目である解剖学・生理学の基礎となる分野（身体における各器官系の働きなど）が多数ある。生物学を学ぶことで、解剖学・生理学を学ぶための基盤を作り、理解を助ける。授業は授業プリントと確認プリントを配布して進めていく。

※実務経験

【到達目標】

生物学の知識を身につける。

目標①：生物学の基本的な用語を理解し、覚える。
目標②：解剖学・生理学における身体の器官系について、導入部分を理解する。

授業計画・内容	
1回目	授業の目的および身体を構成する物質の性質を説明できる。
2回目	細胞の構造と機能および、内部環境の調節（細胞小器官）を説明できる。
3回目	細胞の構造と機能および、内部環境の調節（細胞分裂　他）を説明できる。
4回目	組織・器官系、肺循環について説明できる。
5回目	循環系（血液、心臓の構造及び機能）について説明できる。
6回目	循環系（リンパ）、神経の基本的構造及び性質を説明できる。
7回目	感覚器（視覚・聴覚・嗅覚・味覚）について説明できる。
8回目	中間試験（試験範囲：第1回～第7回）
9回目	筋の構造及び収縮のしくみを説明できる。
10回目	エネルギー産生（好気呼吸・嫌気呼吸）を説明できる。
11回目	消化・吸収について説明できる。
12回目	腎臓における尿の生成とその役割を説明できる。
13回目	恒常性維持について（自律神経、ホルモン）説明できる。
14回目	遺伝の基礎を説明できる。
15回目	振り返り（9～14回、試験対策）
準備学習時間外学習	授業準備は特に必要ありません。1回、1テーマで授業を進めますので、欠席しないようにしてください。 授業後は授業プリントを用いての復習、教科書でさらに知識を深めてください。 イメージがつきにくい構造についてはカラーの図説、特にフリガナがふってある参考書を利用することをお勧めします。
評価方法	筆記試験により成績を判断する。 筆記試験は2回実施し、中間試験50%、期末試験50%の割合で成績評価を行う。
受講生へのメッセージ	生物学から解剖学・生理学の内容へとスムーズに移行できるように授業を行うことを心掛けています。 内容や用語の読み方など何でもかまいませんので、わからないことがあればぜひ質問してください。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：医歯薬出版　南科衛生学シリーズ「生物学」
プリント配布

2025年度　授業概要

学　科　：　歯科衛生士科

科目名（英）	化学 （ Chemistry ）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	堺　晃彦
						実務経験	
		授業形態	講義	総時間（単位）	15 1	開講区分	前期
コース						曜日・時限	水曜　3時限目

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

歯科衛生士の教育が3年課程に移行しているが、「ゆとり教育」の弊害は中学・高等教育において基礎学力の低下という深刻な問題を引き起している。歯科衛生士教育においては、歯科医師と同様、理科・化学の基礎知識は必要不可欠である。化学は物質の性質・構造・変化に関する学問であり、歯科臨床で用いられる物質の化学的な背景を理解することは重要である。歯科衛生士はまさに医療の現場で種々雑多な歯科材料などの物質を扱う立場にあり化学の基礎知識が必要不可欠である。また、化学を理解することにより、生化学・栄養指導の科目へと繋げていくことが出来る。

※実務経験

【到達目標】

(1章)「物質とは何だろう」基本的な物質の本性について学ぶ
(2・3章)「気体」「水溶液」について学ぶ
(4・5章)酸化還元反応を含めた「化学反応」に関して学ぶ
(6章)「有機化合物とは何だろう」有機化合物の基本的な構造や性質について、高等学校までに化学を学習してこなかった学生も理解できるようにする
(最終章)人体をはじめとした生体を形成している化学物質に関して理解し、生化学へとつなげる

	授業計画・内容
1回目	概論　化学とは　1章　物質とは何だろう(元素と原子・混合物と純物質・化合物と単体を説明する)
2回目	2章　気体について知ろう(アボガドロの法則・ボイルの法則・シャルルの法則、ドルトン分圧の法則、ヘンリーの法則を理解する)
3回目	3章　物質が水に溶けるとは(水溶液の濃さの表し方(%、ppm、g、mg、モル濃度)を理解する)
4回目	4章　酸化とは、還元とは(酸化還元の定義・酸化剤還元剤の定義を理解する)
5回目	5章　化学反応では原子の組み換えが起こっている (化学反応の速さを決めているもの・水素+要素＝ヨウ化水素、過酸化水素水が水と酸素に分解する反応を理解する)
6回目	6章　有機化合物とは何だろう(有機化合物の特徴を説明する)
7回目	7章　人をつくっているものは何だろう(水の性質を概説し、ヒトにおける水の必要性を理解する・水の溶媒特性(親水性・疎水性・水和)を説明する)
8回目	まとめ及び試験対策
準備学習時間外学習	●予習・復習の実践 ●体調を整え、欠席をしないように心掛ける ●勉強の習慣化
評価方法	●授業態度 ●出席状況(66．7%以上)クリアで定期試験受験可 ●章末問題に取り組み提出ーレポート評価加算あり ●定期試験(60%以上)クリアで科目単位取得
受講生へのメッセージ	歯科衛生士教育においては、歯科医師と同様、理科・化学の基礎知識は必要不可欠である。化学は物質の性質・構造・変化に関する学問であり、歯科臨床で用いられる物質の化学的な背景を理解することは重要である。歯科衛生士はまさに医療の現場で種々雑多な歯科材料などの物質を扱う立場にあり化学の基礎知識が必要不可欠である。また、化学を理解することにより、生化学・栄養指導の科目へと繋げていくことが出来るため興味をもって取り組んで欲しい

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：医歯薬出版　歯科衛生学シリーズ「化学」
プリント配布

2025年度　授業概要

学　科　：　歯科衛生士科

科目名（英）	歯科材料学 （ Dental goods Learning ）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	有働　公一
						実務経験	
		授業形態	講義・実習	総時間（単位）	30 2	開講区分	後期
コース						曜日・時限	木曜、1時限目

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

歯科医院では多種多様な材料を取扱う。
その歯科材料の理工学的性質・特性を学び実際の取り扱い方を習得する。また、その性質特性を知ったうえで材料を取り扱うことで、スムーズな診療補助を行うことができる。

※実務経験 2021年～山口大学理工学研究科　勤務

【到達目標】

歯科治療で用いられる主要歯科材料の種類、基本的性質および標準的な使用法を習得する。

目標①歯科治療で使用される材料の種類と基本的性質を説明できる。

目標②歯科治療で使用される主要材料の取扱いができる。

授業計画・内容	
1回目	「歯科材料と歯科衛生士」「歯科材料と基礎知識」 金属材料、無機材料、有機材料、複合材料
2回目	「歯科材料の所要性質」 口腔内で使用される材料、口腔外で使用される材料
3回目	「歯科材料の基本的性質」 機械質性質、その他の物理的性質、科学的性質、生物学的性質
4回目	「歯科衛生にかかわる材料」 歯面研磨剤、小窩裂溝填塞材、主な口腔清掃用具
5回目	「印象材（水成コロイド印象材）」 印象材の種類と用途、印象材の組成と特徴、印象材の一般的性質
6回目	「印象材（ゴム質印象材）」 印象材の種類と用途、印象材の組成と特徴、印象材の一般的性質
7回目	「合着材・接着材」 合着材の種類と用途、接着性レジンセメントの種類と用途、合着材・接着材の一般的性質
8回目	中間試験
9回目	「合着材・接着材」 合着材の種類と用途、接着性レジンセメントの種類と用途、合着材・接着材の一般的性質
10回目	「暫間修復材と仮着用セメント」 暫間修復材の用途・種類、仮着用セメント、種類と用途
11回目	「ワックス」 ワックスの種類と用途、ワックスの一般的性質
12回目	「金属」 金属の用途と種類
13回目	「セラミックス」 セラミックスの用途、歯冠修復用セラミックスの分類・種類・性質
14回目	「金属」 金属の用途と種類:「セラミックス」 セラミックスの用途、歯冠修復用セラミックスの分類・種類・性質
15回目	まとめ及び定期試験対策
準備学習時間外学習	●予習・復習の実践 ●体調を整え、欠席をしないように心掛ける ●勉強の習慣化
評価方法	●授業態度 ●出席状況（66．7％以上）クリアで定期試験受験可 ●定期試験（60％以上）クリアで科目単位取得
受講生へのメッセージ	歯科医療において「歯科材料」にかかわる知識は必須で、歯科医師や歯科技工士との専門的な情報交換や患者とのコミュニケーションにおいても「歯科材料」を知っておかなければ歯科衛生士としてのミッションは果たせません。歯科衛生士自身も「歯科材料」を用いて診療の補助や予防処置を行わなければなりません。多くの「歯科材料」の種類、目的、用途についての知識をもっていることが歯科衛生士としての資質を高め、業務を円滑に行うことにつながります。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：医歯薬出版　歯科衛生学シリーズ「歯科材料」

2025年度　授業概要

学　科：　歯科衛生士科

科目名（英）	診療報酬請求事務 (Medical Processor Basic)	必修選択	必修	年次	2	担当教員	(株)医療事務サービス
						実務経験	
		授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30	開講区分	後期
コース					2	曜日・時限	土曜1・2限目

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

診療報酬事務の基礎知識をもとに歯科医院で実際に必要となる技能を学ぶ。

※実務経験

【到達目標】

カルテの読み方や医療保険制度の仕組みやルールを理解し、レセプトを正しく作成、医療費を算定する。

さまざまな症例を用いてルールを理解する。

授業計画・内容	
1・2回目	医療事務概論
3・4回目	歯科医療の点数解説①
5・6回目	歯科医療の点数解説②
7・8回目 9.10回目	カルテ症例（う蝕・歯髄炎・根尖性歯周炎）
11・12回目	カルテ症例（架工義歯）
13・14回目	カルテ症例（有床義歯）
15・16回目	カルテ症例（歯周炎）
17・18回目	カルテ症例（手術・その他）
19・20回目	カルテ症例（在宅・その他）
21・22回目	評価テスト
準備学習 時間外学習	●予習・復習の実践 ●体調を整え、欠席をしないように心掛ける ●勉強の習慣化
評価方法	●授業態度 ●出席状況（66．7％以上）クリアで定期試験受験可 ●定期試験（60％以上）クリアで科目単位取得
受講生へのメッセージ	【診療報酬請求】とは、医療機関が患者に施した処置について、決められた点数をレセプトに記載し診査・支払機関に請求することをいいます。患者は健康保険により治療にかかった金額の一部のみ（最大3割）を負担しています。残りの金額（7割）を保険者である市町村や保険組合が医療機関に支払っているのです。みなさんが働く歯科医院も同じような仕組みで成り立っており、診療報酬請求がきちんとできなければ歯科医院はつぶれてしまいます。大事なことですから、臨床実習での処置を思い出し、ぜひ興味をもって受講してください。

【使用教科書・教材・参考書】

カルテ用語解説集・症例集・診療報酬点数早見表Ⅰ～Ⅳ

2025年度　授業概要

学　科　：　歯科衛生士科

科目名（英）	コミュニケーション論（CSU検定） （ Communication Skill ）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	矢野　隆子
						実務経験	
		授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
コース						曜日・時限	火曜　2時限目

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

コミュニケーション論の概念・理念を理解し将来的には社会の現場で効果的かつ適切なコミュニケーション行動がとれるよう知識技術を教授する。
講義だけでなく演習・グループワークなども取り入れ参加型の授業を行う。

【到達目標】

コミュニケーション論の概念・理念を基に実践方法を理解する。
状況に応じたコミュニケーション技法を依解する。
コミュニケーションスキルアップ検定合格。

授業計画・内容	
1回目	信頼される援助者となるために（教科の目的と授業法）構成的グループエンカウンター
2回目	自他理解のための集団体験学習　価値観の違いを知る　エクササイズ「クルーザー」振り返り
3回目	人とコミュニケーション　コミュニケーション定義　3領域　コミュニケーションの種類を理解する
4回目	基本的対話スキル　コミュニケーションのプロセス　「聴く」の基本　上手な質問の仕方　「話す」の基本を身に付ける
5回目	ノンバーバルコミュニケーション　グループでの会話　グループ会話の基本　まとめ
6回目	自己表現スキル　人間関係を円滑にする表現技術　困ったときの上手な頼み方　断り方を習得する
7回目	仕事の上で必要とされる表現技術　仕事の基本　報告・連絡・相談　交渉　説得　プレゼンテーションを理解する
8回目	自分らしさを知る方法　分析交流による自己理解を深める
9回目	アンガ・マネジメント　怒りの感情の扱い方　伝え方　まとめ
10回目	社会的スキル　対人行動　挨拶　敬語の使い方を習得する
11回目	電話応対　訪問　謝罪　まとめ　社会的スキルの基本と対人行動における実践について理解する
12回目	社会的スキルの実践　社外文書　手紙　メール　FAX　まとめ
13回目	サービスマインド　サービスとは　サービスの心得　対象者　サービスマインドの定義を理解する
14回目	サービスの基本　人　環境　プロセス　サービスの基本要素を理解する
15回目	定期試験対策
準備学習時間外学習	●予習・復習の実践 ●体調を整え、欠席をしないように心掛ける ●勉強の習慣化
評価方法	●授業態度 ●出席状況（66．7%以上）クリアで定期試験受験可 ●7月中旬にｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｽｷﾙｱｯﾌﾟ検定の実施 ●定期試験（60%以上）クリアで科目単位取得
受講生へのメッセージ	歯科衛生士が医療現場において業務に携わる際に必要な礼儀・作法などを理解することは大切です。また、知識を生かして実践につなげることも重要となります。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：滋慶出版　コミュニケーションスキルアップ検定

2025年度　授業概要

学　科　：　歯科衛生士科

科目名（英）	フィニッシング（ Finishing ）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	矢野　隆子
						実務経験	
		授業形態	演習	総時間（単位）	15	開講区分	後期
コース					1	曜日・時限	火曜、4時限目

【授業の学習内容】
医療現場では、歯科衛生士の専門的な知識技術だけではなく、円滑な対人関係を築くための能力が必要である。其のためにコミュニケーション論で学んだ適切な対人行動の実践スキルを生かして、コミュニケーションの大前提である接遇マナーを学習する、この講義では、社会人として、医療従事者として実践場面における円滑な人間関係構築のための笑顔、挨拶、身だしなみ、言葉遣い、態度などを身につけ、現場で求められる社会人として、魅力ある人材を目指す。

（到達目標）
社会人として他者と円滑なコミュニケーションを図ることができるために、接遇演習を通じて基本的な社会的スキルを習得し、適切な対人行動を実践できる。また社内外での適切な言葉づかいやサービスマインドを持って、対象者と接することが実践できることを到達目標とする。

＜具体的な目標＞
①職場内でのルールを理解し必要な対象者に実践することができる
②客観的に自分を観察し身だしなみを整えることができる
③適切な言葉遣いを理解し、具体的な場面で敬語が使えるようになる
④電話応対や来客応対の基本を理解し、具体的な場面で実践できる

授業計画・内容	
1回目	職場での基本ルールとマナー、適切な態度と行動を説明できる
2回目	挨拶と声掛け、身だしなみ、メールの書き方・封筒の書き方を習得する
3回目	心配りを示す言葉づかい、好ましい言葉づかいと好ましくない言葉づかいを説明できる。
4回目	信頼感を得る敬語とはどのようなものか説明できる。敬語の種類を理解し、使い分けすることができる。
5回目	受付から来客応対までの適切な対応の仕方を理解し説明ができる。
6回目	受付から来客応対までのロールプレーイングを実践できる
7回目	電話の受け方、かけ方、伝言の受け方を習得する
8回目	フィニッシングの振り返りとまとめ
準備学習時間外学習	（目標①）仕事を円滑に進めていく上で職場内での基本ルールやマナーを理解し適切な行動が取れることは重要です。接遇マナーを理解し、実践するためには前期に学習したコミュニケーション論の復習が重要です。
評価方法	期末テストの結果を100％成績として評価する
受講生へのメッセージ	魅力：現代社会においてコミュニケーション能力は、プライベートの関係性、仕事上の関係性を問わず重要な技能となります。特に医療従事者においては、患者様の状況に寄り添ったきめ細やかな配慮が必要となり、それらを表現するためのツールとして必須なものがコミュニケーションの大前提である接遇です。接遇の5原則である挨拶、笑顔、身だしなみ、言葉遣い、態度は歯科衛生士して今後の仕事を行う上で、必要な技能と言えるでしょう。また、それだけに留まらず、自身の日常に応用できるという意味でも有意義な講義です。 講義は講義・演習形式となります。

【使用教科書・教材・参考書】
「接遇マナー」コミュニケーショ・ンラウンジYANO　矢野隆子
<参考資料>
患者接遇マナー基本テキスト　有限会社　ソーシャルスキルアカデミー　編者　田中千恵子　歯科衛生士接遇

<使用教材>　講義資料、PC、マイク、プロジェクター

2025年度　授業概要

学　科　：　歯科衛生士科

科目名（英）	コンピューター実習 （ Computer Practice ）	必修選択	必修	年次	2	担当教員	井口　恵美里
						実務経験	
		授業形態	演習	総時間（単位）	30 2	開講区分	前期
コース						曜日・時限	月曜　4時限目

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

基本的なコンピュータの取り扱いを習得する
Word／Exel／Power Pointを習得する

※実務経験

【到達目標】

基本的なコンピュータ(Word／Exel／Power Point)の取り扱いを習得する。

Word／Exel／Power Point 各方法で資料を作成することができる。

授業計画・内容	
1回目 2回目 3回目 4回目 5回目 6回目	「Word」 日本語入力の説明、フォルダ作成・USBの名前変更、データのコピー＆保存　練習作成、発表会「プロジェクト」、クリップアート・ページ設定・罫線・ワードアート、Word課題提出
7回目 8回目 9回目 10回目 11回目	「Excel」 Exel基本説明、数式(SUM・AVERAGE・MAX・MINなど)、縦棒グラフの作成、総合問題(表計算・メニュー・折れ線グラフ・円グラフなど)、Exel課題提出
12回目 13回目 14回目 15回目	「P.Point」 Power Pointの基本説明、ｱﾆﾒｰｼｮﾝ・画面切り替え・ｽﾗｲﾄﾞの移動と削除、動画の挿入・スクリーンショット、ｽﾏｰﾄｱｰﾄｸﾞﾗﾌｨｯｸ、ｽﾗｲﾄﾞの再利用、テーマ、ｽﾗｲﾄﾞ番号の挿入、Power Pointの課題作成、Power Pointの課題作成＆提出
準備学習 時間外学習	●予習・復習の実践 ●体調を整え、欠席をしないように心掛ける ●勉強の習慣化
評価方法	●授業態度 ●出席状況(66．7%以上)クリアで定期試験受験可 ●定期試験(60%以上)クリアで科目単位取得
受講生へのメッセージ	現代の医療は、診断、治療、会計、情報管理などさまざまな分野でコンピュータが利用されています。また、院内発表や学会発表で使用する資料作成や、院内マニュアルの作成など、これからパソコンで行う作業も増えてきます。このようなニーズに対応するために、基本であるWold、Excel、P.Pointの操作方法を一から学習していきます。パソコンの操作は、臨床実習のレポート作成や卒業研究発表などすぐにでも役立ちますので、しっかり学んで活用してください。

【使用教科書・教材・参考書】

Word／Exel／Power Point